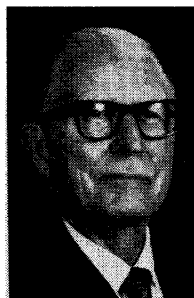




心の糧

十二使徒評議員会補助

ジョセフ・アンダーソン



この世的なものであれ霊的なものであれ、すべて得たものに対してはその代価を支払わなければならない。そしてその得るものも普通、支払った額に見合うものである。洋服を注文するとしよう。もし最高級の生地を使い、スタイルもよく、体に合ったものを作ろうと思えば、安っぽい生地を使ったでの悪いものよりも高くつくのは当然である。家、車、何でも同じことが言える。知的価値を得ようと思えば、努力や犠牲を惜しまず研究に研究を重ねなければならない。

霊的価値についてもこのことは真理である。心から喜んで代価を支払おうとせず、救いや昇栄に必要な事柄を行なわない者が、永遠の生命を期待することはできない。

主は言われた。「わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイ11:30) これは、天父の王国において昇栄を見切り値で買うことができるという意味ではない。見切り値を申し出る者がいても、得るものはやはり支払った額に相当するものだけである。従って、もし我々が天父の王国において永遠の生命に到達したいと望むならば、我々の主、救い主、そしてその偉大なる贖いの犠牲に對して、受身の信仰心を抱くだけでは不十分である。

確かに、主が忠実な子供たちのために貯えておかれる大いなる祝福を、見切り値で得ようと期待するのはできない相談である。

— も く じ —

「主は生けりと知る」……………ジョセフ・フィールドینگ・スミス大管長…	193
2つの神殿の献堂……………ドイル・L・グリーン…	196
ワシントン神殿……………フランクリン・ミラー・スミス…	198
キング・フォレット説教……………ジョセフ・スミス・Jr…	200
不一致の中的一致……………	205
試しの時……………ヘンリー・D・テイラー…	206
人生の目的一試されること……………フランクリン・D・リチャーズ…	208
本と子供と両親……………エリオット・D・ランドー…	211
すばらしき思い出……………エズラ・タフト・ベンソン…	213
暗やみから光明へ……………	215
ヤコブ……………メイブル・ジョーンズ・ガボット…	216
ミルクおけ……………メアリー・プラット・パリッシュ…	218
ドイツのヘルガちゃん……………バージニア・サージェント…	220
若者と伝道の召し……………リグランド・リチャーズ…	221
戒めは書き直されるべきか……………リチャード・L・エバンズ…	224
あなたとホーム・ティーチャー……………ジョージ・デュラント…	227
質疑応答……………	228
唯一の真実の生ける教会……………ボイド・K・パッカー…	232
方針と手続き……………	235
決断……………エルドレッド・G・スミス…	236
ローカルニュース……………	238

5月のこよみ

- | | | |
|-----|-------|---------------------------|
| 1日 | 1846年 | ノーブー神殿オルソン・ハイドにより献堂さる。 |
| 3日 | 1834年 | 末日聖徒イエス・キリスト教会と名付けらる。 |
| 6日 | 1833年 | 聖徒ら主のために一つの宮居を建てよと命ぜらる。 |
| 14日 | 母の日 | |
| 15日 | 1829年 | バプテスマのヨハネによりアロン神権回復さる。 |
| 17日 | 1884年 | ローガン神殿ジョン・テイラー大管長により献堂さる。 |
| 21日 | 1888年 | マンタイ神殿ロレンゾ・スノー大管長により献堂さる。 |

今月の表紙

今月号の聖徒の道は、ソルトレーク神殿建設後79年ぶりにユタ州に建設され献堂された2つの神殿を記念する特集号である。(詳細については196ページ参照のこと。)オグデン神殿(表)、プロボ神殿(裏)の美しい姿は、エルドン・リンショッテン、メルル・ゴーガンによって撮影されたものである。

聖徒の道

1972年5月20日発行
発行人 マービン・S・ハーディング
発行所 東京都港区南麻布5-8-10
末日聖徒イエス・キリスト教会
電話 (442) 7459
印刷所 太陽印刷工業株式会社
定価 100円
予約 一年間 1,000円
外国 4ドル50セント

「主は生けりと知る」

大管長 ジョセフ・フィールディング・スミス

愛

する兄弟姉妹、ふたたび巡ってきた末日 聖徒 イエス・キリスト教会の総大会に出席されたことに心から歓迎の意を表したい。またみなさんの前に立ち、真理とこの偉大な末日のみ業の神聖さについて証をたてる特権のあることを喜ばしく思う。

我々末日聖徒は祝福された民であり、恵まれた民である。「祭司の国となり、また聖なる民となる」（出エジプト19：6）ことは我々の特権である。「主の特別の民となり特に地のおもてのすべての民にとって特別の民となるよう」主がいにしえの父祖を選びたもうたように、我々を選びたもうた。（欽定訳申命7：6）

我々の立場は、永遠の真理に基を置くがゆえに力強いものがある。我々は、恵み深き父なる神が、この最後の福音の神権時代に我々を照らしてくださる豊かな光のうちに歩む限り、敵の火のような投げやりを恐れる必要もなければこの世の境遇で悩む必要もない。

父なる神は限りない知恵をもって、いにしえの予言者らになされた誓約を果たされるため、この末日に完全なる永遠の福音を回復したもうた。この福音は救いの計画である。この救いの計画は、この世の基が置かれる前、天上の大会議で定められ、確立されたものであり、いたるところにいる天父の子供らの救いと祝福のため、今日ふたたび啓



示されたのである。

この偉大にして永遠なる計画によれば、救いはキリストのうちにある。キリストがご自分の血を流し全うされた無限にして永遠なる贖罪により救いはもたらされるのである。キリストは神の御子であり、我々が墮落と称するもののゆえにもたらされた肉体と霊の死から、人々をあがなうためにこの世に来たりたもうた。

この世でなした行為に従ってさばかれるため、すべての人はキリストの恵みにより墓から出で来たるであろう。それから神の律法を信じ守った者たちは、天父の王国で永遠の生命を受け継ぐであろう。この栄えある祝福は、キリストの贖いの犠牲のゆえに可能なものであり、全力を尽くしてキリストを愛し仕える者たちに与えられるのである。

さて私は、人が救いを得るには従わねばならないおきて、すなわち、イエス・キリストの福音からなるおきてが近代の予言者、使徒らに啓示され、現在もこの地上にふたび設立された神の教会によりふみ行なわれていることを証する。

しかし、救いを得るために人が従わねばならないこの偉大にして永遠の真理は、単に我々のためにのみ啓示されたものではない。それは、あらゆる国民、血族、国語の人々のためのものである。

キリストがこの世に来たりたもう時よりおよそ600年前、偉大な予言者ニーファイはその民に向かって言った。

「……全世界を治め導きたもう神にして羊飼である御方はただ一人」

「この羊飼が……よろずの国民に現われたもう時がくる…」（I ニーファイ13：41—42）

この約束された日は今や明けようとしている。この時代は、世界のいたる所に福音がのべ伝えられ、すべての国民の間に神の王国を築き上げるよう約束された時である。すべての国には真理にこたえ、教会に来たり、おのれの民を導く光となる善良で正しい人々がいた。

最近英国のマンチェスターで開かれた大会で、我々は英国民の力強さと指導力を示す数多くの実例を目のあたりにした。英国にあってこの教会は丁年に達し、英国の聖徒らは自国の人々に福音を施す備えと力ができた。

そして英国の聖徒らがそうであるように、他の国々にあっても聖徒らの備えと力ができており、またできるであろう。福音はあらゆる人々のためのものであり、主は福音を受け入れた人々がその真理に従って生き、自身と同じ国、言葉の人々に己をささげるよう望んでおられる。

さて、そこで我々は兄弟愛の精神をもって、いたる所ですべての人々が、予言者ジョセフ・スミスとその同僚たちにより、今日啓示された永遠の生命に至る言葉に耳を傾けるよう招こうではないか。

天父の他の子供らが、「キリストの御許に来てキリストによって全くなる」ように、またすべて神のみところに背



くことを」捨てるよう招こうではないか。(モロナイ10：32)

天父の他の子供らが、キリストとキリストの福音を信じキリストの教会に来たり、聖徒らと1つになるよう招こうではないか。

我々は福音の実を味わい、それが良きものであることを知っているので、すべての人々が同じ祝福を受け、我々の上にかくも豊かに注がれてきたと同じみたまを受けるよう望むものである。

教会にあって、我々の責任は、みたまにより真理に基づいて主を礼拝することであり、かくして我々は、全身全霊、全力を尽くしてそれをなすよう追い求めているのである。イエスは言われた。「主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ」と。(マタイ4：10)

神を拝するとは、はるかに祈りや説教、福音の実行以上のものであると信じるものである。礼拝という最高の行為は、戒めを守り、神の御子の歩みに従い、神の喜ばれることをなすことである。くちびるで主に仕えるのは単なる言葉に過ぎず、我々の前にキリストが示された模範に従って神のみこころを敬いあがめることは、それとは全く別のことなのである。

我々の救い主イエス・キリストは偉大な模範である。我々の使命はキリストにならい、キリストが望んでおられることを行なうことである。キリストはニューファイ人の12人の弟子に「汝らはいかなる人物にてあるべきか」と尋ねられ、また言われた。「まことに汝らはわれと同じ人物ならざるべからず。」(Ⅲニューファイ27：27)

私はキリストの足跡に従う特権があることをうれしく思っている。私がこの世で受けた永遠の言葉や、終りまで忠実に正しく生き残ることにより、次の世で私のものになる永遠の生命を望めることに深く感謝しており、そのように言えることをうれしく思っている。

生涯を通じて私は福音の原則を学びそれを熟考し、主の律法に従って生きようと求めてきた。その結果、私の心には、主に対し、主のみ業に対し、またこの地上にあって主の目的をさらに求めようとするすべての人々に対し、大いなる愛が生まれた。

私は主が生きてましまし、天の高きと地の深きを治められ、その目的があまねくゆきわたることを知っている。キ

リストは主であり神である。主はジョセフ・スミスに向かってご自分でこう言われた。「主は神にして、主の他に救い主なければなり」、「主の知恵は偉大にして、その為したもうところは驚嘆すべく、その御業の終は誰も知る者なし。」(教義と聖約76：1，2)

私はいにしへのヨブと共に次のように述べたいと思う。ヨブの知識は私のものと同じ源から与えられたものである。「わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる。後の日に彼は必ず地の上に立たれる。」「わたしは肉にありて神を見るであろう。しかもわたしのこの目で見得であろう。わたしの見る者はこれ以外のものではない。」(欽定訳、ヨブ19：25—27)

また私は、ヨブの証に加わると同時に、ヨブが苦しみと悲しみの魂から叫んだ感謝の言葉を共にしたい。「主が与え、主が取られたのだ。主のみ名はほむべきかな。」(ヨブ1：21)

我々が聖なるみたまの力によって導かれ、主のみ前に正しく歩めるよう、また忠実な者に備えられる住居と王国において永遠の生命を受け継ぐことができるよう祈るものである。

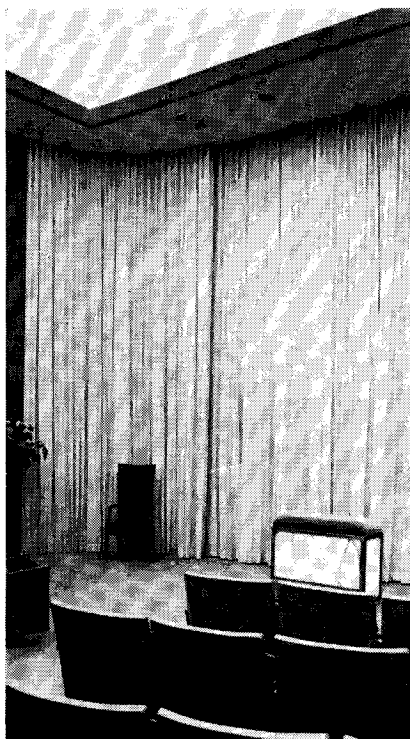
これらのことを主イエス・キリストのみ名により祈りたてまつる。アーメン。



2つの神殿 の献堂

教会機関誌編集長

ドイル・L・グリーン



1972年の1月と2月にかけて、1つはオグデン、もう1つはプロボト、ユタ州に2つの神殿が献堂された。

この2つの神殿は、ソルトレーク市を除いてはユタ州で最も人口の多い2つの地域の教会員に貢献するものである。そしてソルトレーク、ローガン、マンタイ各神殿にかかっている非常な負担を軽減し、毎年さらに何万もの死者のための仕事を可能にさせるであろう。

ユタ州で前回最後に神殿が完成されて以来79年が経過した。偉大な建物であるソルトレーク神殿は1853年に建築が始められ、40年後の1893年4月6日にウィルフォード・ウッドラフ大管長によって献堂された。今回の新しい2つの神殿の献堂を管理したジョセフ・フ

ィールディング・スミス大管長は当時17才の若さで献堂式に出席された。

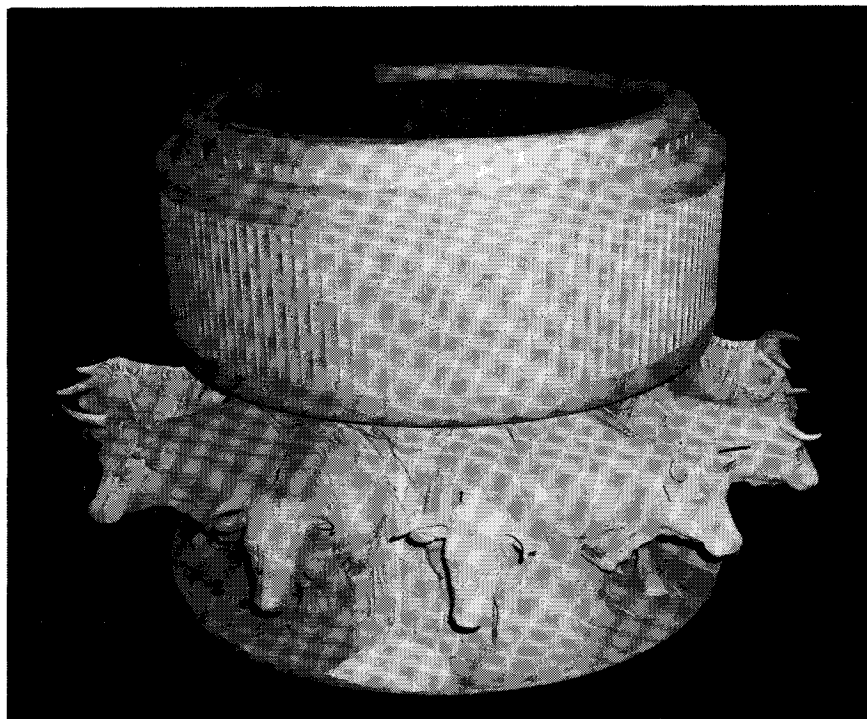
それ以来、神殿は世界中あまねく所に建設された。ハワイ、カナダ、アリゾナ、アイダホ、ロスアンゼルス、オークランド、スイス、英国、そしてニュージーランドと。現在また別の神殿がワシントン特別区の近くに建設中であり、1974年には完成する見込みである。

ユタ州の教会員のためにさらに神殿を備えることが長い間待ち望まれてきた。プロボトの北東部にある丘は、長い間テンプル・ヒル（神殿の丘）として知られてきた。ところが1904年、この丘がブリガム・ヤング大学の敷地に決定された時そこに神殿を見る夢はついにきえ去ったのである。

1921年5月16日付、オグデン発のデゼルトニューズの記事は次のように報じている。

「日曜日早朝、ヒーバー・J・グラント大管長とアンソニー・W・アイビンズ副管長は、地元の教会役員と共に、この市で神殿の敷地を下検分した。」さらに次のことを明らかにしている。「教会員の系図と神殿の活動が非常に活発になり、ソルトレーク神殿では、ごく限られた人数しか収容できないことから、以前にも、この市に神殿を建てる動きがあった。」

1966年の調査によると、13の神殿が使用されていたにもかかわらず、教会の神殿の儀式の52パーセントがソルトレーク、ローガン、マンタイの3つの神殿で行なわれていた。より多くの人々を収容できるよう、ローガンとマンタイの



神殿を改修する考えがときおり出されたが、多くの研究の結果、神殿の能力を意味あるものにふやすには、内部を完全に打ちこわして修復しなければならない、その考えを押し進めるのは実際的ではないという結論にいたった。その結果1967年8月14日、デビッド・O・マッケイ大管長の承認のもとに、大管長会の副管長であるヒュー・B・ブラウン長老とN・エルドン・タナー長老がプロボ地域の28人のステーキ部長、それと同様に、オグデン地域の25人のステーキ部長と会合を開き、そこで新しい神殿の建設を提案した。

教会の他地域でも神殿の必要性があるにもかかわらず、ユタ州に2つの神殿が計画されたのは、多数の人々の用に供するためであると説明された。ステーキ部長たち

は、全幅の意をもってこの提案を受け入れ、十分に支持し協力することを約束した。

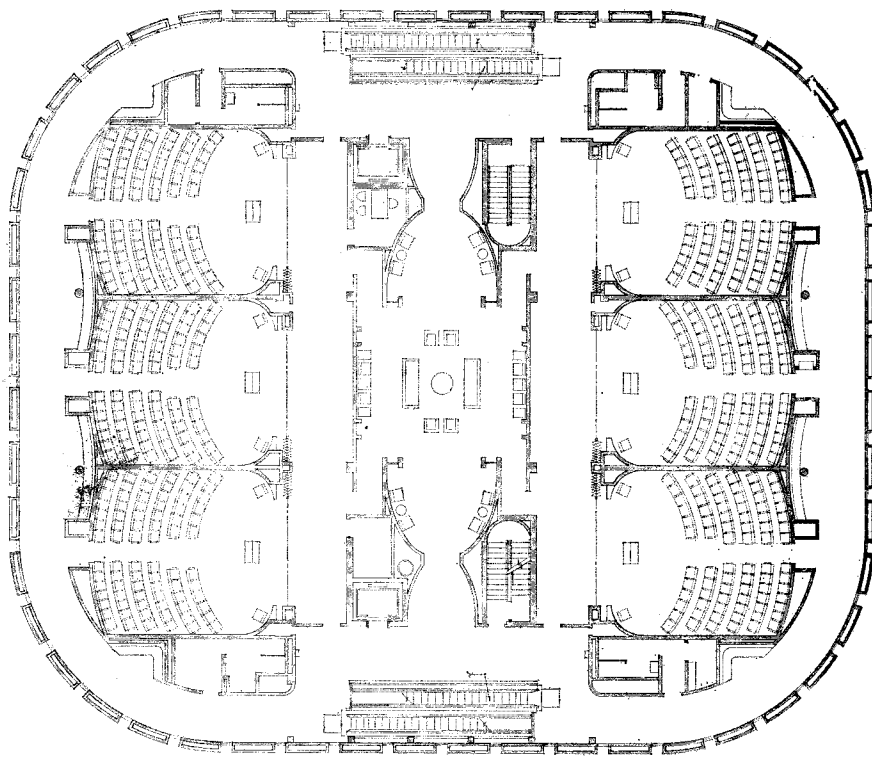
オグデン神殿の鋳入れ式は1969年9月8日に行なわれ、翌1970年9月7日に隅石が置かれた。プロボ神殿の鋳入れ式は1969年9月15日、そして1971年5月21日に隅石が置かれた。

基本的な計画では、地下1階、地上3階の4階建てのものであった。地下には、バプテスマフォント、機械設備、ボイラー室、洗たく室、調理場、食堂、神殿職員用の更衣室、そして倉庫がある。1階は61メートル×56メートルの大きさで、休憩室、玄関の広間、管理室と事務室、男子の更衣室、女子の更衣室、花嫁の部屋、花婿の部屋、また待合室がある。2階には礼拝室と13の結び固めの部屋が

ある。最上階(3階)には、6つの儀式の部屋と日の栄光の部屋がある。全階を通じてエレベーターが動いており、地上3階の間にはエスカレーターが設置されている。

地上の2つの階のデザインは独特である。最上階(3階)の図に見られるように、回廊が全面的に取り巻いている。儀式の部屋へはこの回廊から入るようになっている。建物内で迷うことはほとんどなくなったので、神殿職員や死者の身代わりの人々の一団は、最も能率的に秩序正しく行動できるだろうと期待される。

各儀式部屋には80人の席があり、セッションは一定の間隔をおくか、あるいはある部屋が一杯になれば、どちらが先でも始められることになっている。ということは、何時に神殿に着こうとセッシ



ワシントン 神殿

フランクリン・

ミラー・スミス

ジョンが始まるまでの待ち時間が最少になることを意味している。

以上の計画や手続きが、この2つの神殿をして我々の最大の神殿と同じ数の人員を1日に収容できるようにしていることは興味深いことである。

2つの神殿の内装は同じように計画されているのに反して、外観をよく検分すると、全く違うことがわかる。1階の扉と窓のアーチや鉄格子の形状は違ったものになっている。プロボ神殿の人造石ブロックは、花模様が浮き彫りになっているのに対して、オグデン神殿のそれは、縦みぞが彫られている。オグデン神殿の興味ある特徴は、3階の人造石ブロックの間にある窓をおおっている非常に装飾的な感じのする鉄格子である。プロボ神殿の塔には花模様や泉のモ

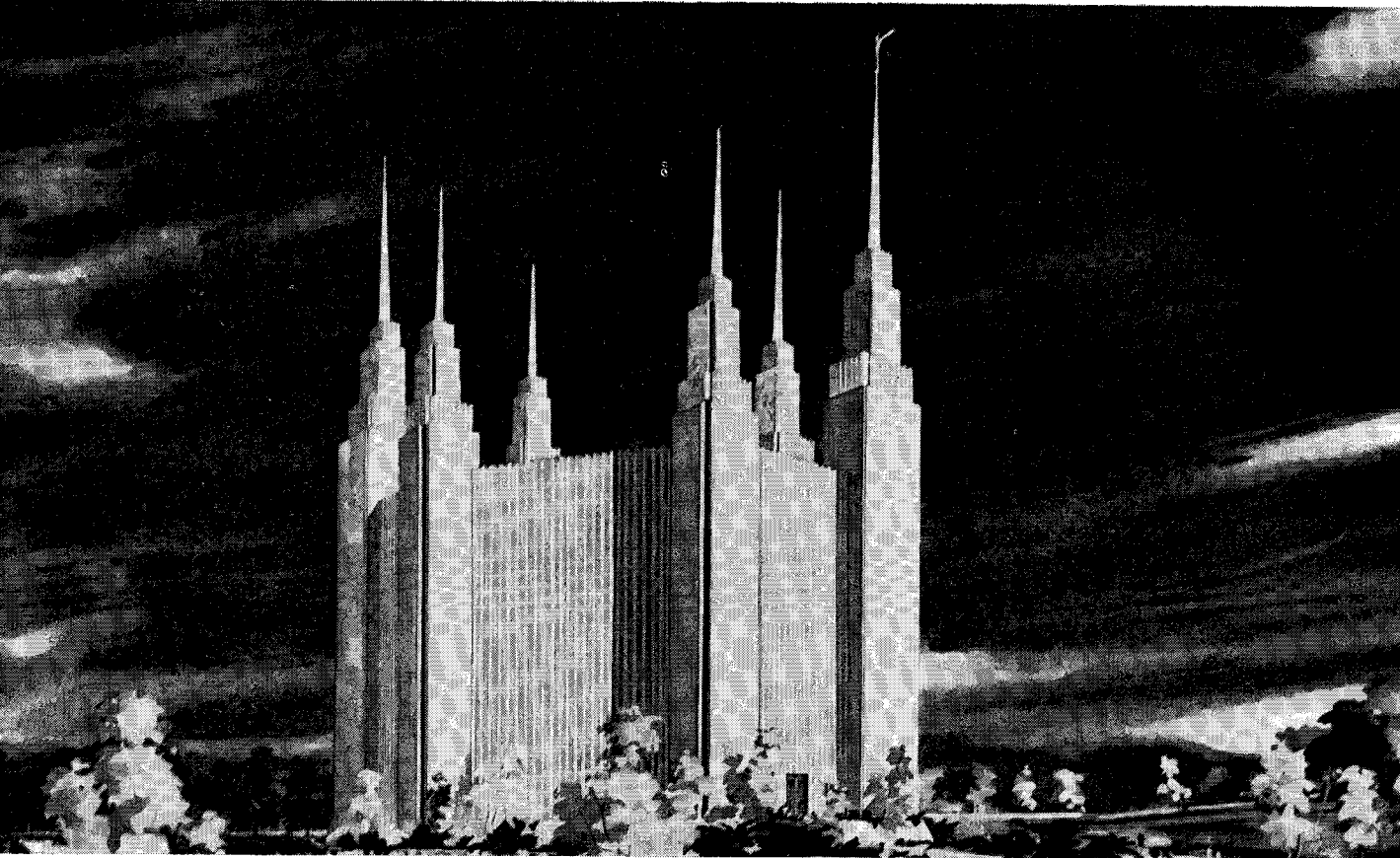
チーフが繰り返され、オグデン神殿の塔は、縦みぞが美しく、いずれも地上から約55メートルも高くそびえている塔に全く違った外観を与えている。

慣例にならい、2つの神殿は献堂されるに先だって一般に公開された。

オグデン神殿は1月18, 19, 20日に6回のセッションが開かれて献堂された。プロボ神殿は、2月9日2回の儀式が執行されて献堂が終った。全部の儀式は大管長会の管理のもとで行なわれた。教会幹部は全部のセッションに出席し、大管長会の指示に従って話をした。

デビッド・O・マッケイ大管長が建設を許可された時に「神殿の粋」と呼ばれたワシントン神殿が今、アメリカの首都ワシントン特別区の入口にあたるこんもりとした森の中に建設されている。

教会が建てる16番目のこの神殿は独特な構想とデザインを有している。この神殿の重要な特色は、世界中に福音の力をもたらす伝道の働きをなす点である。毎年、他国や他の大陸からの幾万もの人を含め、1700万以上の訪問者がワシントンを訪れる。各国首脳がアメリカの大統領に敬意を表し会談するのに訪問し、また、議会の指導者も、国家の指導者と同様に訪問する。訪問者、友人として訪れ、旅行者として訪れ、商取引やサービスの交換に訪れる。人類愛の流れは決して終りがない。



そこで、この壮大な神殿は、教会にとって記念すべき塔となり、すべての「国、民族、国語」ととり真理の象徴としてそびえ立つであろう。

神殿は、市の北端にある森林に建てられる。そこは57エーカーが原始林のままである。11エーカーが整地される。

この敷地は他の神殿と違って、回りの環境が小規模の樹木園となることである。建物の周囲には、たくさん花壇、花の咲くかん木類、装飾用の樹木、また回りの森林をところどころ飾るように、ミズキ、シャクナゲ、アザリヤが植樹される。

ワシントン神殿は、交通の便にはこと欠かないが、また神殿は回りの森林で絶縁され、商業や住宅の発展が、この地域の一番の高所

である丘に建てられたこの独特の建物には及ばないようになっている。

大管長会が承認した建築のデザインは、世界中の教会員、非教会員の胸になつかしいものとなっているソルトレーク神殿の尖塔の構想に従ったものである。

地上から天使モロナイの像までの高さは約88メートルもある。7階建てで、7階には聖会室がある。もう1つの特徴は、オグデンやプロボ神殿のデザインに似ているが、日の栄光の部屋の回りに儀式用の6つの部屋が整えられていることである。

ワシントン神殿は大理石で化粧される最初の神殿で、この大理石はアラバマ州から運ばれる。またその純白さを和らげ壮麗さを高めるためにわずかながら石目がつけ

られる。

1968年11月15日、マッケイ大管長は教会がすでに購入したその敷地に立って神殿を建てる決定を発表した。当時大管長会の第一副管長であったヒュー・B・ブラウン副管長が1968年12月にその敷地を献納した。

神殿は1974年の初めには完成される見込みで、その春には一般に公開されるであろう。儀式はその年の夏までには始められる予定である。

ワシントン神殿は、約30万の教会員を擁するアメリカ東部海岸の全域とさらにカナダまで北上する一帯の人々に貢献することになるであろう。

樹木園…珍しい樹木を研究したり一般に公開したりする場所。

モルモン思想
の 古 典

キング・フォレット説教

末日聖徒イエス・キリスト教会初代大管長

ジョセフ・スミス・Jr. (1805—1844)

これは1844年4月7日、イリノイ州ノーブーにおける教会の大会で予言者ジョセフ・スミスの行なったキング・フォレット説教の後編である。この前編は、聖徒の道4月号に掲載された。読者は、説教が4人の兄弟たちが筆記をした記録から再製されたものであることを心に留めねばならない。また、予言者はこののち数カ月で敵の手にかかり死亡したことを知るのも大切である。この記事は教会歴史記録第6巻P 302—317からとられたものである。

不死不滅の霊

私は他にも話すことがある。それは昇栄した人のことについてであるが、私はこの事柄について多くを語ることはできない。それゆえ、私はそれにただ触れるだけである。時が私にすべてを語ることを許さないからである。そ

れは死者、すなわち靈魂、人の精神、不死不滅の霊の復活という事柄に関連している。霊はどこから来たのであろうか。神学者、神学博士らは神がはじめに霊を創造されたと言う。だがそうではない。私が見るに、その考えは人を軽んじるものである。私はその教義を信じない。私はよりよく知っている。聞きたまえ、あなた方世の果てまでの人々よ、神が私にそう語られたからである。もしあなたが私を信じないならば、真理は空しいものになってしまうであろう。私が話を終るまでにもし信じないならば、人は愚かな者と見えるであろう。私はより高貴な物事を語るのである。

神御自身が自ら「我れ有りの神」と言われた神であると我々は言う。だれがあなたにそう告げたのであろうか。それはまったく正しい。しかし、あなたは、どのようにしてそれを知ったの

か。人はこの同じ原則に基づいて同様に存在しなかったとは、だれが教えたのであろうか。人はこの同じ原則の上に存在している。神は幕屋を造り、そこに霊を入れたまい、それは生きた者となった。（聖書を参照のこと）ヘブライ語ではどう記してあるであろうか。ヘブライ語では、神が人の霊を造られたとは書かれていない。「神は土のちりで人を造り、アダムの霊を吹き入れられた。そこで人は生きた者となった」と記されている。

人の持つ精神あるいは英知は、神御自身と同等（永遠共存）である。私は私の証が真実であることを知っている。ゆえに、私がこれら嘆き悲しむ人々に話す時、彼らは何を失ったというのであろうか。彼らの親戚、友人は短い期間、体から別れたにすぎない。神と共に存在していた彼らの霊は、わずかの間かつて同様、土の幕屋を離れた

のであり、今は、我々が地上でしているのと同様、共に語りあう場所に存在しているのである。

私は人の霊の不死不滅について語っている。霊の英知が不滅だと言いながら、それにはじまりがあったと言うのは論理にかなうであろうか。霊の英知にははじめがないし、終りもない。それは理にかなう。はじめあるものは、終りがある。霊が存在しなかった時はかつてなかった。なぜなら、霊は天の御父と同等（永遠共存）だからである。

私は人の霊についてさらに論じたい。なぜなら今、人の体と霊、死者のことについて述べているからである。私は指から私の指輪を抜き取り、それを人の魂、すなわち不死不滅の部分—なぜならそれにははじめがないからである—になぞらえる。これを2つに切ったとしよう。そうするとはじめと終りができる。しかしそれを再び合わせれば、一つの永遠の輪ができる。人の霊も同じである。主が生きたもう時、それにははじめがあるならば、終りがあるであろう。人の霊にははじめがあると言う創造のはじめ以来の愚者、学者、賢者たちすべては、霊に終りがあるはずだと証明している。もしその教義が真実であるなら、死んだのち人が無に帰するとの教義は真実となろう。しかしもし私が正しければ、私は屋根の頂から大胆に、神は人の靈魂を創造する力を持っていなかったと叫ぶであろう。神御自身は、自らを創造できなかった。

英知は永遠であり、自存の原則に基づいて存在する。それらは永遠に霊であり、それについてはいささかの創造も行なわれなかった。神がこの世に送られたあらゆる魂、霊たちは増進を許

されている。

人の第1の原則は、神と共に自存することである。

神御自身は、霊たちの間、栄光のただ中におられた時、さらに英知ある御方であったがゆえに、他の者が神のように進歩する特権を持つことのできる律法を定めることをよしとされた。我々と神との関係により、我々は知識において進歩する状態に置かれているのである。神は弱い英知たちが御自身と共に昇栄し、栄光に栄光を加えられ霊界で彼らを救うための条件である知識と力と栄光と英知のすべてを持つことのできるよう、彼らを教える律法を定める力を持っておられる。

これはよい教義であり、味わいがある。私は永遠の生命の原則を味わうことができ、あなた方もそれができる。それらはイエス・キリストの啓示により私に与えられている。あなた方に、私に与えられたままの永遠の生命に関するこれらの言葉を語る時あなた方はそれを味わい、それを信じると知っている。あなた方は蜜が甘いと言い、私もそう言う。私は永遠の生命の霊の味をも味わうことができる。私はそれがよい味であると知っている。そして私が聖霊の靈感によって与えられたこれらのことをあなた方に語る時、あなた方は必ずそれを甘いと受け入れ、ますます喜ぶのである。

人と神との関係

私は人の神に対する関係についてさらに話したい。私は死者に関してあなた方の目を開こう。我々が死ぬべき世に住む間、我々の肉体に関して、神がその限りない知恵において我々に啓示するのをふさわしく正しいと見られるこ

とは何であっても、すべてのことが抽象において、またこの世の幕屋と近いかなにかに関係なく我々に啓示される。しかしそれは我々の霊には、あたかも全然体を持たないかのように確かに正しく啓示される。我々の霊を救うそれらの啓示は、我々の体を救うのである。神はそれらを、体すなわち幕屋が永遠に崩壊するとの見地に立って我々に啓示されるのではない。それゆえ責任、実に畏怖すべき責任が死者と関連して我々の上にある。なぜなら、肉にあって福音に従わなかったすべての霊は、霊にあってそれに従うかのろわれるかのどちらかである。何と厳粛な思想であろう！何と恐るべき思想であろう！なすべきことはないのであるか。人の子の命令に従う機会を得ずして死んだ我々の先祖や友のために、何の救いも何の備えもないのであろうか。40日40夜をかけ、あなた方すべてに語ることができたらいいものを。私はあなた方に、私が「偽予言者」ではないことを知らしめるであろうものを。

最大の責任

死者の救いに関してどのような約束がなされているであろうか。体が墓に朽ち、衰えているというのに、救われる人々はどのような人々であろうか。主の戒めが教える時、それは永遠の見地からのものである。なぜなら、我々は主によりあたかも永遠の存在者として見られるからである。神は永遠に住まわれる。そして我々のようには物事を見たまわらないのである。

この世にあって神が我々に負わせられた最大の責任は、我々の死者を捜し求めることである。使徒は「わたした

キング・フォレット説教

ちをほかにしては彼らが全うされることはない」と言っている。なぜなら、時満ちたる神権時代、すなわちイエス・キリストが、地の据えられる前、人の救いのためになされた約束を果たすこの神権時代に、我々の子孫と我々の先祖を結び固めるための、結び固めの力が我々に与えられることは必要である。

さて、私は彼らについて話そう。私は道半ばにしてパウロに会う。あなたに言う、パウロよ、あなたは我々なくして全くなることができない。我々の先に行く者とあとに行く者とが我々と共に救いを受けるべきことは必要である。かくして、神はそれを人の義務となしたもうた。神は言われた、「主の大きいなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤ（エライジャ）をあなたがたにつかわす。彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである。」

許されることなき罪

私は、神が人の状態にあわせて地の基が置かれる以前に作りたもうたある規定について言明したい。イエスは何と言われたであろうか。人が犯すあらゆる罪、あらゆる神を汚す言葉、あらゆるとがは、ただ1つを除いてすべて許され得るし、この世においても霊界においても1つの規定があって、許されることのない罪を犯さない人はこの世でも来たるべき世でもすべて救いが得られる。ゆえに神は、永遠の世界におけるあらゆる霊たちが、この世でも霊界でも免れ得ない、許されることなき罪を犯さない限り、見出され、救わ

れることができるという規定を作られた。神は、ある罪を犯さない限り、すべての人のために救いをそなえたもうた。永遠の世にいる友を持つ人は皆、彼が許されることなき罪を犯さない限り、彼を救うことができる。そうして、あなたはどれほど自分が救い手となれるかを知るのである。

人は肉体の朽ちたのち、許されることなき罪を犯すことはできない。そこから逃れることのできる道が1つあるのである。知識は人を救う。霊界で、だれも知識によらずして昇栄はできない。人が戒めに注意を払わない限り、彼は救いなしに住まわねばならない。もし人が知識を持つならば、救われることができる。しかし、彼がすでに大きな罪を犯しているならば、それらに対して罰せられるであろう。だが彼が、この世であろうと霊界であろうと、福音に従うことを受け入れる時、彼は救われる。人は、自分を苦しめる非難者となる。ゆえに、彼らは火とイオウの燃える湖へ行くと言うのである。人の心の失意の苦しみは、火とイオウの燃える湖同様激しい。人の苦しみもそうだと言うのである。

私は聖典を知り、それを理解している。私は、だれも死後に許されることなき罪を犯せず、この世にあっても、聖霊を受けるまでは、その罪を犯すことがないと言った。人はその罪をこの世で犯すのである。それゆえに、イエス・キリストの救いは、悪魔に勝つため、すべての人のためにもたらされた。もし、救いにより人がある場所へ連れ行かれなかったなら、他の場所に行ったことであろう。主が救い主として立たれたからである。キリスト御自身に従うまで、あらゆる人は艱難を受けるであろう。



天における論争があった。——イエスは救われない人々もあるであろうと言ひ、悪魔はすべての人を救うと言ひその計画は大会議に提出され、彼らはイエス・キリストに賛成した。そこで悪魔は神に反逆し、従う者全員と共に投げ落とされた。(モーセ4：1—4 アブラハム3：23—28)

罪の許し

聖霊に逆らう罪を除き、あらゆる罪は許される。イエスは滅亡の子以外全員を救われるからである。許されることのない罪を犯すとは、何をすることであろうか。彼は聖霊を受け入れ、諸天が彼に開かれ、神を知り、そのち自分に反する罪を犯す。人が聖霊に逆らう罪を犯したのち、彼にとって悔い改めは存在しない。彼は、太陽は見えても輝かないと言うに至る。彼は諸天が彼に開かれながらイエス・キリストを否み、真理に目があいているのに救いの計画を拒む。彼はその時から、敵となるのである。これが、末日聖徒イエス・キリスト教会から背教していった多くの人々の状態である。

人がこの業の敵となり始める時、彼は私を捕え、私を殺そうとし、私の血に飢えて止むことがない。彼は悪魔の霊、すなわち聖霊に逆らう罪と同じ、また命の主を十字架にかけた者共と同じ精神を得る。あなた方はそのような者たちを救うことはできない。あなた方は彼らを悔い改めに導くことはできない。彼らは悪魔のように戦いを始める。その結果は恐るべきものである。

私はあなた方すべてに、行なうことに注意深くあれと勧告する。そうでないと、あなた方は少しずつ欺かれることになるかもしれない。自分自身に確

固としてとどまりたまえ。道を離れてはならない。軽率に動いてはならない。あなたは救われることができよう。もしにがい心があるならば、はやまって動いてはならない。あなたは、あの人は罪人だと言うかもしれない。しかし、もし彼が悔い改めるならば、彼は許される。用心深くあれ。待ちたまえ。あなた方が流血を求める者、殺人者を見出す時、それと同じくなる者は神の人ではなく、悪魔の人である。おおよそ、心からあふれることを、口が語るものである。

最良の人々は、最良の働きをもたらす。あなた方に生命の言葉を語る人は、あなた方を救うことのできる人である。私はあなた方に、聖霊に逆らう罪を犯すすべての悪人たちに反して立てと警告する。なぜならば、彼らにはこの世でも来たるべき世でも救いがなからである。

もし時間があるならば、神と人との関係につき、関心ある事柄を振り返って詳細に語れるものを。私は奥義に入ることができる。永遠の世界に奥深く踏み入ることができる。イエスはこう言われたからである。「わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言っておいたであろう。あなたがたのために場所を用意しに行くのだから。」(ヨハネ14：2)パウロは言っている、「日の栄光があり、月の栄光があり、星の栄光がある。また、この星とあの星との間に、栄光の差がある。死人の復活も、また同様である。」(Iコリント15：41)死者に関して、我々は何をもって慰めとずるべきであろうか。我々は、地上のどの人々が死んでも最も大いなる望み、慰めを得る理由を知っている。我々は彼らが我々の間にあって

ふさわしく歩むのを見、彼らがイエスのみ腕にいだかれ眠るのを見たからである。信仰を持ちつつ死んだ人々は、今や神の日の栄光にいる。それは日の栄光である。

キング・フォレット長老の死について語りながら嘆くあなた方は、喜ぶべき理由を持っている。あなた方の夫や父は去り、死者の復活の時まで、すなわち残りの者が完全になる時まで待っているのである。それは、復活の時には、多くの人が同様の祝福を受けられる時まで多くの年を待たねばならぬ一方で、あなた方の友は完全な幸福のうちによみがえり、日の栄光に行くからである。あなた方の希望、期待は人の理解をはるかに越えている。神はなぜそれを我々に啓示されたのであろう。

私は語る権威を持っている。聖霊の権威によって語る権威を。あなた方は恐るべき理由を何1つ持たないと。なぜなら、彼(フォレット兄弟)は正しき者の家に行ったのである。嘆いてはならない。泣いてはならない。私はそれを、内にある聖霊の証によって知るのである。あなた方は、友たちが日の光栄の世界の朝にやって来てまみえるのを待つことができよう。

喜べ、おおイスラエルよ。真理ゆえに迫害にあって殺された友たちは、殺人者たちが、大きな償いをなし終えるまで幾年も苦しみのたうつ一方で、日の光栄の中に輝かしい勝利をおさめるであろう。私はこれを、異邦人のために言うのである。

私には霊界に行った父、兄弟、子供、友人がある。彼らは霊にある。我々は間もなく再び会うであろう。ラッパの鳴り響く時は間もなくやってくる。我々が世を去る時、我々はイエスにあって

キング・フォレット説教

て眠りについた母、父、友、そして愛するすべての人々にあいさつをするであろう。暴徒や迫害や悪意の訴訟や捕縛の恐れはなく、永遠の幸福があるであろう……。

私はここでこの事柄から離れ、バプテスマのことについて、二、三述べよう。水のバプテスマは、火と聖霊のバプテスマが伴わなければ、無益である。2つは分離不可能、必然に結びついている。人は神の王国に入るために水と霊とから生まれなければならない。ドイツ語では、私がこの14年間この事柄について教えた啓示と同じことを述べている。私は、彼らの口に上るべき証を持っている。私の証はいつの時にも真実であった。あなた方は、それをバプテスマのヨハネの言葉の中に見出すであろう。（ドイツ語聖書から読む）ヨハネは言っている。「わたしは水でおまえたちにバプテスマを授けている。しかし、イエスが来られる時、この方は力（鍵）を持つ方で、彼は火と聖霊のバプテスマをお授けになるであろう。」偉大なる神よ！今、すべての宗派の世界はいずこにあるのか。この証が真実であるなら、彼らは皆、破門されるごとくたしかに呪われている。私は、この聖句が真実であることを知っている。あなた方のうち、それが真実であると知っているドイツ人は、はいと言ってほしい。（「はい」という大きな声）

アレクサンダー・キャンベルよ！あなたは水だけで、どうして民を救うのか。ヨハネは、イエス・キリストのバプテスマなしでは何のためにもならないと言った。「そういうわけだからわたしたちは、キリストの教えの初歩をあとにして、完成をめざして進もうではないか。今さら、死んだ行ないの

悔改めと神への信仰、洗いごと（バプテスマ）について教えと按手、死人の復活と永遠のさばき、などの基本の教えをくりかえし学ぶことをやめようではないか。神の許しを得て、そうすることにしよう。」（ヘブル6：1－3）

1人の神、1人の父、1人のキリスト、我々の召しの望みは1つ、バプテスマは1つである。……多くの人がバプテスマは救いにとって大切ではないと言っている。しかしそのような教えは呪いの基礎を置くものである。私は真理を持っている。もし彼らにできるとして、私に反対する者たちをものともせずには。

私は今、少しのラテン語、少しのヘブライ語、ギリシャ語、ドイツ語を説き、すべてを満たした。私は多くの人が考えているような大ばか者ではない。ドイツ人は、私がドイツ語を正しく読んでいることを知っている。

第二の死

聞きたまえ、あなた方世の果てまでのすべての人よ、すべての祭司、すべての罪人、すべての人々よ。悔い改めよ！悔い改めよ！福音に従え。神に帰れ。あなた方の宗教はあなた方を救わず、あなた方は呪われるからである。私はどれほどとは言わない。地獄から贖われたすべての人につき数々のことが言われてきた。しかし私は、聖霊に逆らう罪を犯す者はこの世でも来たるべき世でも許されることがなく、第二の死を受けると言う。許されることなき罪を犯す人々はグノローム、すなわち終りなき世界、地獄に住むべく定められる。この世で流血の場をもくろむ時、彼らは火とイオウの湖のごとき復活によみがえるであろう。ある者

は神の永遠の燃える炎によみがえる。神は永遠の燃える炎に住まわれるからである。そしてある者は己れの汚れの呪いによみがえる。それはイオウの火の燃える湖と同じ苦しみである。

私はこの言葉を、富める者と貪しい者、奴隷と自由人、大きな者と小さな者、あらゆる人々に告げている。私はだれにも敵意を持たない。私はあなた方を皆愛する。しかし私はあなた方のある行ないを憎む。私はあなた方の最良の友である。もし人がまとをはずすなら、それは彼自身の誤ちである。私がある者を非難して彼が私を憎むならば、彼は愚か者である。なぜかと言えば、私はすべての人々、特にこれらの兄弟姉妹を愛しているからである。

私は、年老いた友たちの証を聞き、喜ぶものである。あなた方は私を知らない。あなた方は私の心を決して知らない。だれも私の経歴を知らない。私はそれを語ることができない。私は決してそれをしない。私は、私の経歴を信じないからといって、だれをも責めはしない。もし私が自分の経歴を経て来なかったとしたら、自分自身でそれを信じなかったであろう。私はこの世に生まれてこの方、1人の人も害することをしなかった。私の声は常に平和のためである。

私は、私の働きがすべて終るまで死ぬことができない。私は何の悪事も考えたことがなければ、隣人を害する行ないをしたこともない。私が大天使のラッパにより呼ばれ、はかりにかけられる時、その時あなた方は皆私を知るのである。私はもはや言うことをしない。神があなた方すべてを祝福したもう。アーメン。

不一致の中的一致

回復されたイエス・キリストの福音の非常に驚嘆すべきことの1つは、救いの原則は互いにかかわりを持っているので1つをとってこれが最も重要なものであると区別するのがむずかしいということである。少なくともこのようなことは根底にある神の愛や同胞に対する愛以上にあらゆるものにあてはまるものであると思われる。

このような概念をもって、末日聖徒のすべてに関心のある1つの原則に注意を向けてみたいと思う。

1834年、ミズーリ州で迫害を受けている聖徒に、主はジョセフ・スミスを通して彼らの問題の一部は、自らのうちにあるといわれた。

「されど見よ。彼らはわが彼らに要求したところにおとなしく従うことを覚らずしてあらゆる悪に満ち、彼らの中の貧しくして苦しめる者たちに聖徒たるにふさわしく物質を頒たず。」

「日の栄の王国の律法の要求する和合一致に従いて一致協力せず。」

「およそ日の栄の王国の律法の諸原則によらずんば、シオンを建つこと能わず。これによりて建てずば、シオンをわれに受け入ることかなわざるなり。」(教義と聖約105:3-5)

2、3カ月前に、同じ人々は次のように言われている。

「彼らの中にはあつれき、争論、嫉み、紛争および汚らわしき貪りの欲望ありき。故にこれらによりて、彼らはそのゆずりを汚せり。」(教義と聖約101:6)

近代のイスラエル人に与えられたこれらのことばや、キリストと父は1つでありながらもすべての信じている人々が1つになるようにと父なる神に願われたイエス・キリストの祈りからも(ヨハネ17:21参照)、福音の最も大切な原則が一致であるということが明らかである。事実、一致は日の栄えの王国の原則であり、シオンは我々がすべての律法に忠実でなければ建設されることはない。

福音という網があらゆる国々、種族、国語の民、人々から神の子供たちを集めている今日、この一致という問題は教会の大きなチャレンジとなっている。教会にいる私たちや教会に加わろうとしている人々は、他のあらゆる人たちとは違った世界に生活している。そのような相違はある場合は顕著であるが、他の場合はむしろはっきりしていない。程度はともあれ、我々にはそれぞれ固有の違いがあり、またそれぞれ違った力、たとえば文化、地理、経済、社会などに影響されている。

しかしながらそのような不一致の中

から一致がそして愛がもたらされるにちがいない。

我々が「日の栄の王国の律法の要求する和合一致に従いて一致協力しないならば」このような人々は聖別されずまたキリストを受け入れようとしないうであろう。

この聖句は軽々しく、非現実的に響くかもしれないが、これは永遠の生命を得るのがむずかしいことを示しているのである。

一致は完全な調和のない教会のすべての家庭になければならない。また不和や争いのたえないワード部や、支部になければならない。また一致は他の人たちよりもすぐれていると考えている教会の人々の目標とならなければならない。

すなわち、我々は日の栄の王国の原則と一致していないこれらの価値や伝統、慣習、姿勢を我々の生活から一掃しなければならないのである。

一致は意見の相違をなくすものではない。もし我々がそれぞれに違った考えをもっていても、目的やとりきめの下に集大成するとそこには偉大な強さがあるものである。しかし結局は、天父と御子が1つであるように我々も1つとならなければならないのである。

予言者アブラハムは主のちょう愛を受けた人である。彼は、この地上に来る前には高貴にして偉大な英知であったと告げられた。彼は、英知たちが死すべき者として誕生した後に住まう場として、地球が創造されたことを知った。ここにおいて英知たちは試され、主なる神がなすように命じた

任である。人は自分自身で決定を下さなければならない。これが福音の計画のすべてであった。その計画が提示された時に、我々は霊的な存在として評議会に出席し、その計画に賛成したと予言者ジョセフ・スミスは告げている。

地上に住むにあたって、この時代は栄ある時である。福音と神権が回復さ

を持つ、毅然とした性格の人で、人からの影響をほとんど受けない人であった。しかし、そのような彼も予言者ジョセフを愛し敬い、彼には従順であった。予言者の殉教後のある時、ワイトはこのように言った。「世にあって私を治めることのできる唯一の人はもういない。」彼はブリガム・ヤングや他

試しの時

十二使徒評議員会補助

ヘンリー・D・テイラー

第141回半期総大会における説教

もうすべてのことをなすかどうか見られるのである。そのために、地上での生活は試しの場となるのである。

この世で歩む道は障害のないもの、あるいは容易な道とはされていない。偽り者、欺く者の父であるサタンとサタンに従う者たちは、人々の目を真理からくらますために奸計と力を用い、また人々を邪道へ導こうとすることを許された。しかし、人には選択の権利である自由意志が与えられねばならなかった。神は予言者を通して、戒めとして知られる導きを与えられ、もしそれに従うなら、喜びと幸福がもたらされるように計画された。しかし、善悪の選択をするのは人の特権であり、責

任、教会が再び建てられた。キリスト・イエスが、その名を有する教会の頭であり、我々が予言者、聖見者、啓示を受ける者として支持している人々が我々を導いている。

我々には、この地上で生涯を過ごす時に、立ち上がり、価値を示さなければならない時がある。これが試しの時である。我々は主の戒めを守りつつ、主の側に立っているであろうか。指導者を支持し、彼らを助けているであろうか。確固として立ち、動揺することがないだろうか。

「山岳の野生の羊」として知られるライマン・ワイトは、この神権時代の初期の使徒であった。彼は強固な意志



の十二使徒たちとの交わりを断ち、一群をテキサスへ連れて行った。そしてついに彼は名も知られなくなり、世に忘れられた。一方、ブリガム・ヤングと忠実な人々は西部へ行き、発展し名を高めた。ライマン・ワイトは試され応えられなかったのである。

後にシモン・ペテロ、あるいはペテロとして知られるようになった漁師シモンは、アンデレからイエスを紹介された。アンデレは、イエスがメシヤであるという証をすでに持っていたのである。

最初にシモンをご覧になった時、イエスは言われた。「あなたはヨナの子シモンである。あなたをケバ（訳せば石または岩）と呼ぶことにする。」（欽定訳ヨハネ 1:42参照）

イエスがペテロの中に見られた岩のような性格は、すぐには築かれなかった。ユダが救い主を裏切った時、ペテロは3度イエスを知らないと拒んだ。しかし、救い主の十字架の刑の後に深い悲しみに陥り、非常な苦しみの静寂に捕われ、やがてキリストが彼をペテロと呼んで以来求めておられた強さを得たのである。シモンは厳しい試しを受け、試みられ、その後岩なるペテロにふさわしくなったのである。

予言者ジョセフ・スミスも、他の幾人かの人々が試みられたように、試しを受けた。彼が天父なる神と、主にし、て救い主なる御子イエス・キリストからの個人的な訪れによって恵みを得たことを世に証した日以後、敵対者の悪しき力がすべて彼の上に放たれたようである。

誹謗され、中傷され、タールを塗られ、羽をつけられ、不正に投獄され、残忍な扱いと屈辱を受けることにより、彼

の心は非常な試しを受けたのである。

ジョセフにとっては、友人たちばかりでなく主までが自分を見捨てたもうたかと思われるような時があった。非常に大きな苦痛の中から、彼は叫んだ。「おお神よ、汝は何所に在したもうや、神の隠家を蔽える大幕何所にありや。」その後、彼は聖徒たちに苦しみを与える邪悪で不法な迫害について述べている。次いで、主からこれに対して慰めの言葉が下された。「わが子よ、汝心安かれ。汝の不幸、汝の困苦はただこれ東の間なり。

然り而して、もし汝よくこれを耐え忍ばば、神は汝を高きに挙げたまわん。かくして、汝あらゆる敵に勝つことを得ん。

汝の友だちは誠に汝を援け、温き心と親しき手もて再び汝を歓迎迎えん。」（教義と聖約121:1, 7-9）

ジョセフ・スミスは、自分に示された真理に対して誠実かつ忠実であり、確固たるものを持っていた。彼の友は世に対して次のような誇らしい宣言を発した。「主の予言者にして聖見者なるジョセフ・スミスは、ただイエス・キリストを除くのほか、この世に生を受けたる何人よりもこの世に於ける人類の救いに尽したり……彼は神とその民の眼前に偉大なる生涯を送り、偉大なる死を遂げたり。而して、昔主の聖任したまいし者らのほとんどすべてが然ありし如く、彼の使命と事業とを己が血を以て結び固めたり……」（教義と聖約135:3）

ジョセフ・スミスはまことに試され、試みられたが、動揺することがなかった。彼は期待された条件すべてにかなったのである。

世が始まって以来、いつの時代にも

それぞれの誘惑があり、サタンがそれらの源である。今日も、我々の時代の誘惑がたくさんある。

至高者がおられるという考えをあざける人々がいる。彼らは、神は死んだと宣言し、そのように教えている。

また他の人々は、来世があるという信仰をあざ笑う。彼らは死が終りであり、裁きの時などなく、この世の行ないの責任を負うこともないと主張する。そうであるのになぜ楽しまないのか、我々はあす死ぬかも知れないと、彼らは語る。

アルコールやタバコや幻覚剤を使っても体は害されず、また姦通も許され、目的を達するためには不正直も義とされると、我々に信じ込ませようとする人々がいる。

世のものに捕われ、もっと大切な価値あるもの、すなわち霊のものを見失わせる誘惑がある。

試しや誘惑は、教会の若人のみでなく、我々1人1人にもある。我々にはみな、救い主のように、我々のゲツセマネがある。道は時折でこぼこであるかもしれないが、リーハイの語ったように、我々がしっかりと鉄の棒をつかんでいれば、我々は闇の唯中でもそれによって導かれるのである。もし我々が世のあざけりの声に耳をかさなければ、すなわち道を失わず、また川に落ちたり、迷ったりしなければ、我々はアブラハムが予見した人生の試しに及第するのである。

努力と難儀はすべて受ける価値がある。なぜなら、我々は最大の賜である永遠の生命の賜を得るからである。この人生が幸福なものとなるように、主イエス・キリストのみ名により、へりくだって祈りたてまつる。アーメン。

人生の目的—— 試されること

十二使徒評議員会補助

フランクリン・D・リチャーズ

愛する兄弟姉妹たち、私は心を低くして皆様方の前に立つものである。私はこの半期総大会に出席する特権を得、偉大な指導者たちの言葉に靈感を受けたことを感謝申しあげる。我々は、世界史上にむずかしいこの時代にあって、幸福で立派な人生を生きるに役立つ助言を受けた。

アダムがエデンの園から追われた時彼は、「あなたは顔に汗してパンを食べ、ついに土に帰る、あなたは土から取られたのだから」（創世 3：19）と言われた。

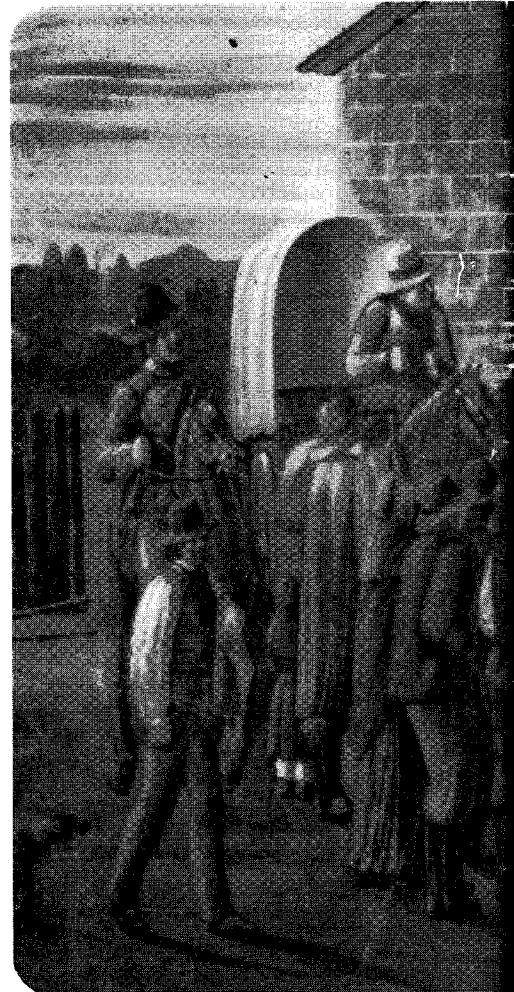
私は、ある大きなヨーロッパの大学の構内の門の上に、「魂の苦悶と額の汗によらずして、価値あるものは何一つもたらされない」という言葉が刻んであると聞いた。

エラ・ウィーラー・ウィルコックスは「ゲツセマネ」という美しい詩の中でこう述べている。

「おそかれ早かれ、旅する者はみなこの園の門をくぐらねばならない。暗闇の中ひとりそこにひざまずかねばならない。

そしてある激しい絶望と闘うのだ。
『わたしの思いのままではなく、みこころのままに』と言えず、ただ『この杯を過ぎ去らせて下さい』と祈り、ゲツセマネの園での目的を知り得ない人を、神は哀れと思われる。』

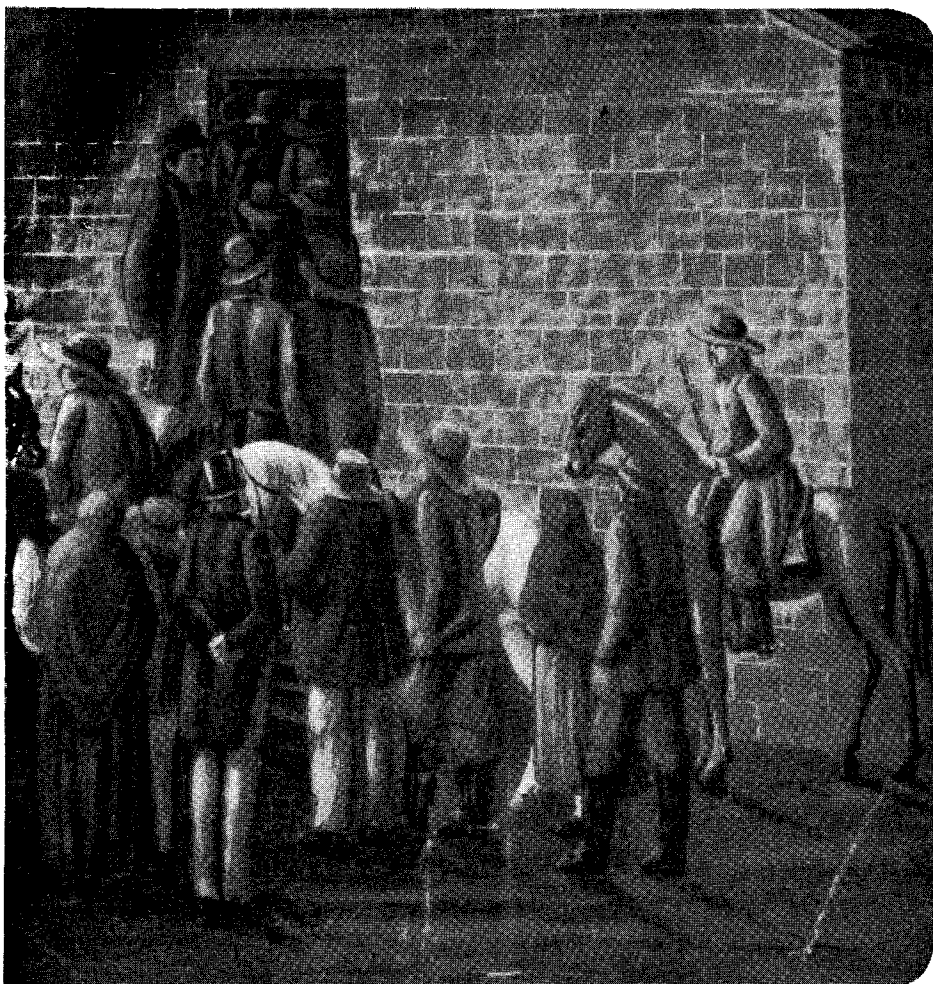
人が困難や好ましくない経験を自ら求めようとしなないのは当然であるが、人の成長進歩の道の途中に立ちほだかる人生の試練や苦悩が、もしそれに負けてくじけてしまうのでなければ、よ



り高い所へ登るための石段となることは真実である。何らかの立派な業績を残す人の話は、ほとんどすべて、不利な条件に打ち勝った物語である。障害に打ち勝つことの中には、他からは決して得られない貴重な教訓があるように思われる。

この神権時代の最も苦しい経験から2つをあげれば、それはシオンの陣営とリパティーの牢獄での経験であろう。この2つは偉大な人々の生活に影響を及ぼし、教会歴史にも多大の影響を残した。

ミズーリで教会員は迫害を受け、予言者ジョセフは1834年2月24日、そのことについて祈り、啓示を受けた。主は予言者に、少なくとも百人の青、壮年男子を集め、シオンの地、すなわち



ミズーリへ行けと教えられた。(教義と聖約103:19—34参照)

およそ155名の男子からなるシオンの陣営が、1834年春オハイオ州カートランドに集められ、西ミズーリへ向けて行軍した。ミズーリに着くまでに、陣営はほぼ200名に達していた。

この旅の目的は、ミズーリにいる聖徒たちと合流して、ジャクソン郡に土地を買い、郡を包囲して、ミズーリの聖徒たちから多くの財産を奪った暴徒の手から、土地を取り返すことであった。

ミズーリに到着し、ダンクリン知事との何回にもわたる交渉が失敗に終ると、シオンの陣営を解散して、シオンの受け戻しは将来の機会にゆだねることがよいように思われた。

シオンの陣営に加わっていた大部分の人々は、当時教会活動の中心となっていたカートランドに帰った。

「シオンの陣営の旅」は多くの人に、益するところのない失敗の話として受けとめられている。陣営に参加しないでカートランドにいたある兄弟は、ブリガム・ヤングが帰って来た時に「あなたはジョセフ・スミスといっしょにミズーリに無駄な旅をして、何を得られましたか」と尋ねた。それに対してブリガム・ヤングは、「何のためかと言えば、私はこの旅で得た経験を、ゴード郡の全部の富と引きかえにするとっても、譲らないでしょう」と答えた。ゴード郡とは、当時カートランドのあった郡のことである。(B・H・ロバーツ「ブリガム・ヤング、その人柄」

インプルーヴメント・エラ第6巻)

1,600キロ以上に及ぶ旅であり、内部には意見の相違、外からは敵意をあらからさまに表わす行動が示された。困苦や落胆はあったが、それらの経験はそこに参加した人の中から、ミズーリからノーヴーへ脱出した1万2千名の一行の指導者が大勢出、のちに、その多くはノーヴーからソルトレーク盆地への西部大移動の際の指導者となったことからわかるように、真に価値ある経験であった。

1835年2月、シオンの陣営に加わって予言者ジョセフと共にミズーリへ行ってきた兄弟たちは一堂に集められ、その中から十二使徒定員会会員と七十人が選ばれた。予言者は、シオンの陣営の者たちが耐えた困苦や苦しみは無駄ではなく、それは「命を捧げることを決意してシオンに向かった者たちは必要であれば、この業に任命され、最後の時代にぶどう園を刈り取るためにつかわれる」という神のみこころであったと語っている。(教会「歴史記録第2巻P.182」)

これらの出来事に照らして、シオンの陣営の経験は、その人々にとっても教会にとっても非常に価値ある経験であったことがわかる。

教会史上、最も暗い時代の1つは、1838～39年の冬であった。聖徒たちは迫害され、奪われ、殺されていた。予言者と数名の者は裏切られ、リバティーの牢獄に捕らわれた。不和と背教ははびこり、教会はいまにも崩壊しそうに見えた。

しかし、この暗い時代からも、めざましい発展、成長の時と同様、苦難の時にも教会を導く人々が生まれたのである。だがそれだけではない。主が予

言者ジョセフ・スミスに大いなる啓示を与えられたのも、リバティーの牢獄に捕らわれている間、この暗闇の時代のことであった。リバティーの牢獄は一時、教えの中心となったのである。

ブリガム・H・ロバーツ長老は「教会歴史粋」の中で、それをこのように述べている。「聖徒たちの目は、励ましと勧告、主の言葉の出る場所としてそこ（リバティーの牢獄）に向けられた。予言者がそこにいる限り、獄と言うよりは神殿であった。そこはめい想と祈りの場であった。神殿は、何よりもまず祈りの場である。祈りは神との交わりである。それは『無限の神を求める人間の無限の場』である。そこで両者は互いを見出し、聖なる場所となる。それが神殿である。ジョセフ・スミスはこの荒廃した牢獄の中で神を求め、神を見出した。彼は苦難のまっただなかから、情熱を傾けて神を呼び求めた。」（第1巻P.526）

神からその答えが来た。「わが子よ汝心安かれ。汝の不幸、汝の困苦はただこれ束の間なり。然り而して、もし汝よくこれを耐え忍ばば、神は汝を高きに挙げたまわん。」（教義と聖約 121：7～8）

予言者ジョセフは、大きな試練が彼を襲っても、「地獄のあぎと大口開けて汝を呑まんとすとも、わが子よ汝この事を知れ、すなわちこれ皆汝に善からんため、汝に経験を与えんためのもなり、と。『人の子』は一切これらのものの下に身を落したり。汝は彼より大いなるか。」（教義と聖約 122：7—8）と告げられた。

牢獄の神殿とも言うべきリバティーの獄から告げられた1つの大いなる真理は、神権と教会統治のことである。

これは教義と聖約第121章に記されているが、その一部を読んでみよう。

「見よ、召さるる者は多けれども選ばるる者は少し。選ばるることなきは、これそもそも何の故ぞ。そは、人々の心甚しくこの世に属けるものの上であり、唯々人間の誉を得ることをのみ望み、次の如き1つの戒めを知らざるによる。曰く、神権の権能は天の能力と固く結びつきて離るべからざるものにして、天の能力は正義の原則によりてのみ支配し運用し得るものなり、と。」（教義と聖約121：34—36）

ある時、予言者ジョセフ・スミスはどのようにして民を治めているのかと問われた。彼の答えは、「私は民に正しい原則を教え、彼らは自分を治める」というものであった。（ジョン・テイラーの回想、説教集 第10巻P.57—58）教義と聖約第121章に美しく述べられている正しい統治の原則は、教会員が自分を治める正しい原則を教えられていることの良い例である。

我々は、人生の大切な目的の1つは試されることであると信じている。シオンの陣営の経験もリバティーの獄の経験も、実はそこに参加する人々に対する精練者の火であり、そのことは立派に成長し、天の御父に近づくために人生の困難やむずかしい状況を経験することが必要であることを教えている。これらの経験は、我々に予言者ジョセフ・スミスや教会初期の指導者の偉大さについてよく理解せしむるものである。

しかし、我々はシオンの陣営やリバティーの牢獄の経験から、自分のためになるどのようなことを学ぶであろうか。

2つの真理が印象に残る。第1は主

イエス・キリストを信じる信仰の大切さと、教会や指導者に対する忠誠であり、第2は、いかなる困難にあおうとも終りまで堪え忍ぶことの必要性である。

これらの原則を我々の生活に応用するために、今、我々は指導者の勧告に従い、奉仕する機会をすべて受け入れ各々の責任をよく果たし、しかり、終りまで堪え忍ぼうではないか。心を世のものに向けることを避けようではないか。神権を行使する時には正義の統治の大いなる原則に沿おうではないか。そのようにして主の戒めを守ることにより、我々は喜び、しあわせ、成長、進歩を得、「神のあらゆる賜の中最大なる永遠の生命」を得るであろう。（教義と聖約14：7参照）

私はシオンの陣営やリバティーの牢獄の話に出てくる人々と共に、神が生きていまし、イエスがキリストであること——この証は聖霊が私に証したもうたことであるが——、またジョセフ・スミスが神の予言者であり、彼を通して神の御名において行なう力と完全なる福音が地上に回復されたことを証することができる。私はジョセフ・フィールディング・スミス大管長が現在この地上における神の代弁者であり、主が彼をその最も大切な召しにあって祝福し支えたもうことを知っている。

シオンの陣営やリバティーの牢獄から学ぶ偉大な教訓を決して忘れず、試練や苦難や辛苦がやってくる時に、それらは我々が永遠の生命を喜ぶために会わねばならぬものであることを覚えておこうではないか。我々が試練に立派に耐えることができるよう、イエス・キリストのみ名によって祈りたてまつる。アーメン。

本と子供と 両親

エリオット・D・ランドー

声

を出して本を読んであげることほど、子供と大人の関係を温いものにするものはありません。子供は本を読んでもらい、大人にとぎれることのない注意を注がれるのを非常な喜びとします。大人が声を出して子供に本を読んであげる時、それが子供にどんなに大きな喜びを与えているかがすぐわかります。またその大人がまったく正直な人であるなら、自分自身も子供と同じ位楽しんでいることに気づきます。おそらくこれが、両親が子供の読書に関心を持つべきであるという第一の理由でしょう。

読書はひねくれた社会病の薬でも、宇宙を征服するための道具でもありません。また私たちが子供にかわってしてあげることでもないのです。彼らは音や感情、自己を知るために文学の世界に放り出されることが必要です。若い両親が、生まれて1年もたたない子供に添い寝しながら、簡単な詩のついた子守歌を口ずさみ、リズムや散文の力強さを伝えることが必要なのです。何のためでしょうか。それは彼らに詩を教えるためではありません。

子供が良い文学を聞き、両親の読書する姿を見、家族ぐるみで行なう創造的な演劇活動に参加することは、彼らが読書を始める良い動機づけとなります。

小さい時に子供に本を読んであげる第1の目的は、将来のために知識をつぎ込むことではなく、子供が小さいうちに、親子間の関係をすばらしいものにするにあるのです。将来子供が読書をするようにしつけるのはそのあとの問題です。生まれて3年目位までの子供たちに本を読んであげる時は、教える目的でそうすべきではありません。それは両親と子供が共に時間と音の響き、そして喜びをわか合う機会とならなければなりません。

子供は3歳にならなくとも読み方を覚えることができるという人もいますでしょう。ごくわずかの子供たちにとっては可能なことかもしれません。危険は教える側にあるのです。母親は子供への愛と容認を

本と子供と両親

子供自身ではなく、子供がどれだけ学んでいるかということに置いている場合が多いのです。これは条件付きの愛と呼ばれ、「私のために勉強してくれるなら、あなたを愛しましょう」と言っているようなものです。イエスが人々の親切へのお返しとして愛を示されるようなことがなかったように、私たちもそのようにすべきではありません。

情緒的な面での成長に欠かせない子供の自信は、生まれて4年目位でそこなわれもし、大きくもなります。子供の将来の教育に熱中する多くの親は、子供をあまりにも早くから実力を越えた勉強につかせようとしします。

根本的な読書方法を学んだ子供は、(方法は別として)次にその国の言葉で書かれた文学に親しむことが大切です。読み方を覚えても、宿題のためだけに読書するのは喜ばしいことではありません。また読書法を学んでも、文学の内容の重要性を無視して言葉を軽べつするような話の中から、子供たちにあらかじめ決められた一連の技術を教えるある「読書法」に今日見受けられる誤った言葉だけを読むのでは意味がありません。あらゆるすぐれた文学の中に、また最高の児童文学の中には、心呼びよすもの、文学に代わるものとして子供たちに言葉の曲芸をさせる人々には受け入れられない方法で、子供や大人を他の人々の生活や考えに加わらせる何かがあります。

ジョージ・デュラントの「天からの贈物」の記事に、現在ベトナムで捕虜となっている空軍の1パイロットが、捕われの身となって35カ月後に許可された家族あての数行の手紙の中で、妻に勉学にいそむようと勧めているのがありました。私は彼の次の言葉に心を打たれたのです。「マージ、大学のクラスは楽しいかね。児童文学、芸術、音楽鑑賞……をよく勉強するように……」

私は、1971年2月28日、ボンネビルステーキ部の四半期大会で、エズラ・タフト・ベンソン長老の言われたことをはっきり覚えています。彼は大会に出席したすべての人々に、家族に積極的に入っていくように、そしてそれは主として親の責任であると言

いました。それがデビッド・O・マッケイ大管長がこの世において主な目的としたものでした。ハロルド・B・リー副管長もまた、家庭を生活の質が向上される場として教会の組織よりも上に置いて、そのことを述べています。「私は、現在においてもまた過去においても教会には選ぶ権利は与えられていないと思う。しかし、家庭にその神聖な使命を遂行するよう援助を与え、また末日聖徒の家庭生活を向上させるうえでさらに何かをなす権利は持っている……多くのプログラムや組織を通じての働きと同じようにこれら教会からの働きかけも大切ではあるが家庭にとって代わるようであってはならない。家庭を助けるべきである。」(聖徒の道1971年8月号P.237)

子供たちのための文学プログラムを計画している学校はほとんどないことから、両親(ほとんど教育を受けていない人々でさえ)はそれぞれ、自分の子供に自国語の文学を紹介する責任があることを自覚しなければなりません。それには、思い出深い適当な児童文学を両親と一緒にあるいは子供と一緒に読んで家庭の夕べを始め、あるいは閉じることほどすばらしい方法はないと思います。家庭の大小にかかわらず、夕食時は子供たちに本を読んであげる絶好の場となり得ます。豊かな愛とあわれみの気持、主の持ちたもう美德は、心に語りかける文学の中に啓発されるに違いありません。なぜなら、知識でよく把握できないことでも心では悟ることができるからです。詩、俳句、民話、小説などの文学は子供に自分自身の動機づけと他の人々の行ないを理解させ物事を見る違った目を貸し与え、そして自分自身と友人を新しい光の中で見れるようにしてくれるのです。

完全な愛は、私たちのほとんどがこの短い人生で楽しむようなことではなく、感情と知識を要求します。文学に親しむことによって読者は、自分の乏しい可能性を超越した世界へと入り込むのです。

ランドー博士は、1955年にニューヨーク大学において博士課程を修め、ユタ大学の児童の発達および児童文学教授を務めている。

現在は、日曜学校中央管理会で働いている。

宣教師の思い出

いなかのウィットニーワード部は、若者とすばらしい宣教師活動愛する監督にめぐまれていました。彼らの興味をそそる手段として、この監督は伝道を終えてもどってきた宣教師ひとりひとりに日曜学校では子供のために簡単な伝道の報告をさせ、また聖餐会ではくわしい話をしてもらうことにしました。宣教師たちがよく伝道中のくるしいことをくわしく話したあとで結論として言う、伝道中がいかに人生の最も幸福な2年間となるかを理解するのはときどきむずかしいことでしたが、子供たちは「伝道に出たい」という小さい時からの希望にかられたのでした。

「お父さん、祝福師の祝福は何才になったら受けられるの？」と、私はアロン神権の若者のころ、日曜学校の終わったある朝父にたずねました。この質問は2人の宣教師の話を聞いて心にかんできたものでした。父は私にべつにきめられた年令はないが、その祝福の意味がよくわかる年令になる必要があること、またもちろんそれにふさわしくならなければならないと言いました。

私は父に私がほんとうに受けるにふさわしいと思っているかどうかたずねました。すると父はそう思っているが、それは監督さんの言われることで私の言うことではないと言いました。

「祝福師の祝福を受けるために推せん状をいただけるかどうか監督さんにたずねてみてはどうかね。」父は私にそう提案しました。



すばらしき 思い出

十二使徒評議員会会員
エズラ・タフト・
ベンソン長老

私はこのことを実行しました。礼拝堂の片すみで慎重に、しかも簡単な面接を受けたあと（というのは5、60年前にはほとんどの教会には監督室がなかったからです）監督はサインした推せん状をくださいました。

私がそれを父に見せたとき、父は背の高い白髪の人をさして言いました。「ステーキ部の祝福師のダレイ兄弟がきょうここに訪問されているんだよ。彼におまえの推せん状を見せていつ祝福をうけられるかたずねてみてはどうだ」といいました。

祝福師は片手を私の肩において言いました。「もし君が私といっしょに義弟のウィンワード兄弟の家まで来てくればきょうすぐに祝福をさずけよう。」

私はこの信仰の厚い人と腕を組みながら通りを歩いて行き、農家につきました。特別な場合に使う応接室で、ウ

インワード兄弟を筆記者として、このすばらしい祝福師は手を私の頭の上におき、私の祈りにはっきりとした答えをくださったのです。もし私が忠実であるなら、みだれた世の中に悔い改めをさけぶために、いろいろな国々に伝道に召されるであろうと祝福して下していました。その祝福の中で成されたさまざまな約束が成就されるであろうという確信と幸福な気持ちに満たされ、私は家に帰る間、空気の上を歩いているようでした。私は家につくと、家族にこのうれしい知らせを伝えました。

しかし私の約束された祝福が成就する前に、家族全体に豊かな祝福がもたらされたのです。それは何年も前のことですが、いなかのワード部で午後2時から聖餐会が開かれていた時のことです。私たちはたいていつも家族全員が乗れる白い屋根のついた馬車で聖餐会に行っていました。しかしそのころ多くの流行病といわれる病気があったために、両親は子供たちをおいて聖餐会に出席するように言われていました。そして父と母だけが一頭立ての馬車にのって出かけて行きました。

両親が聖餐会から帰ってきたとき、私たちは前にまったく見たこともないような様子を目にしました。父も母も同時に泣きだしたのです。私はいちばん年上だったので、どうしたのかをたずねました。母は何でもないと言って私たちを安心させようとしてしました。

「それならどうしてないているの」と私たちはたずねました。

すると母は「家に入ってそのことを全部くわしく話しましょう」と言いま

した。

私たちが居間にある古いソファのまわりに集まると、両親は涙のわけを説明してくれました。

聖餐会が終わった時、いなかの店が郵便物を受けとろうとしている農夫のためにしばらくの間開かれたのです。というのは郵便局がそのお店の中にあったからでした。当時いなかでは郵便物の配達はしてくれませんでした。そのため日曜日にわずかの間お店が開かれ、農夫たちが郵便局までわざわざ出かけなくてもよいようにしていたのです。

父と母は聖餐会が終わって家に帰る途中、郵便物を受けとるためにその店に立ちよりました。父が馬車をはしらせ、母が封筒をあけると、そこにはBox Bからの手紙が入っていました。それは父が伝道に出るようという召しの知らせでした。当時はだれも伝道に出れるかどうか、準備はできているかどうか、また喜んで行きたいのかなどとは聞かれなかったのです。監督には知らされていても、伝道の召しは予告なしにやって来ました。

母はお父さんが伝道の業をなすにふさわしい人として召されたのでうれしく、また感謝の気持でいっぱいだった。と言いました。父はこう説明しました。「私たちが泣いたのは伝道に出るというのが、2年間離ればなれになることを意味していたからなんだ。お父さんは、結婚してから2日以上離れて生活したことはまったくないんだよ。それは困いをするために峡谷へ行ったときと、油井やぐらの材木を求め



絵：メルル・ゴーガン

に行ったときだけなんだよ。」

父は家に母と7人の子供たちをおいて伝道に出ました。伝道に出かけて4カ月後に8人目の子供が生まれました。私たちの小さな農場は、伝道資金を得るために売られてしまっていたので、一家は広い農場から穀物の畑の小作にうつりました。わたしたち子供は母の日々のはげましや父からの祝福の手紙に元気づけられて、毎日家畜や干し草や牧場の世話をしました。

それはとてもつらいことでしたが、報いある2年間でした。私たちは母の口から不平などいちども聞いたことがありませんでした。母と父とよく歌った歌を仕事をしながら歌っていました。父からの手紙はアイオワ州のデンプンポードやイリノイ州のスプリング

フィールドやシカゴまたアイオワ州のシーダーラピッドからとどきました。

家族の祈りや一致と共に、これらの手紙は、私たちの家族に決してなくなることはない伝道の精神をもたらしてくれました。後に7人の息子たちは皆伝道に出ました。

何年か後、私は母の枕元で伝道に出かける5番目の息子に彼女がこう言っているのを聞きました。「ジョージ、たとえ家に何がおこっても伝道が続けて、最後まできちんとやり終えて来てちょうだい。」

数週間後、大管長会から南部諸州伝道部のリグランド・リチャーズ伝道部長のところに母が亡くなったという電報がとどきました。それから1年後、父が亡くなったという電報が来ました。しかし母の望みや家の伝道精神に忠実に、ジョージは最後まで伝道続けました。残された短い遺書の中には、わずかではあるが財産をはじめに2人のまだ小さい小供たちの伝道に使うようにというただし書きがありました。

若いとき12人もの兄弟や姉妹が伝道に出るのを助けたことのある父は、亡くなった時著名な市民や州の上院議員や教会の会員以外の人からもこのように言われたほどでした。「皆さん、きょうわれわれはこのカッシュ盆地で、最もすばらしい影響を与えてくれた方を葬りました。」

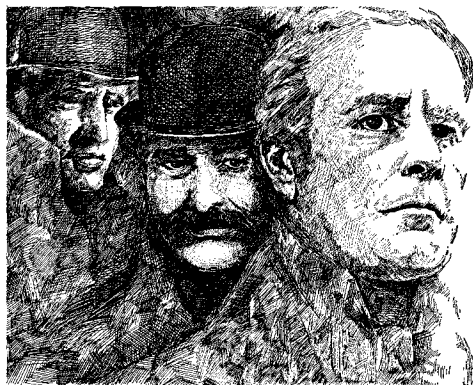
私たち11人の子供は、ことばや行ないを通して模範によって主の偉大な伝道の召しに常に忠実であった両親に、どんなに感謝していることでしょう。

暗やみ から 光明へ

絵：デール・キルボーン

灰色がかった失望の影が、暗くなった道を2人の長老と共に家路へ急ぐカールを包みこんでいた。彼はこの2人の長老からバプテスマを受け、教会の会員としての確認を受けたばかりであった。彼は教会が人間の考えによってできたものかあるいは本当に主により設立されたものかを知ることができるように祈っていた。そして彼はエルベ川の水をくぐって出て来た時には視界が開け、理解力が増すものと信じていたのだった。しかし夜はまだ暗く、空は黒かった。そこには何の変化もなかった。

3人が共に暗い道を通して家に戻って来た時、話は神権の権能に集中した。長老の1人はドイツ語を話し、ドイツ語しか知らないカールと英語しかできない同僚の長老の通訳をつとめた。ところが突然、通訳の必要がなく



なったのである。しばらくの間、長老は2人共カールの質問と意見を理解し、カールは彼らの答えをドイツ語でも英語でも理解できたのである。

今やカールは、バプテスマの時の祈りが答えられたと感じた。長老たちはこの不思議な経験が彼らにとって特別な祝福であることを知ったが、カールのバプテスマが教会のすべての人々にとって大きな祝福となるであろうとは考えも及ばなかった。

カール・G・メーザー博士がバプテスマを受けたのは27歳の時で、ドリスデンのブディック・アカデミーの教頭をしていた時である。彼は優秀な生徒であり教師であった。彼が最初にモルモン教会を知ったのは、当時出まわっていた、その教えを嘲弄したパンフレットを通してであった。彼は教会がなぜ人々からそのような憎しみをかっているのか不思議に思い、もっと詳しく調べてみようかと決心したのである。

当時、ドリスデンの近辺にモルモンはだれもいなかったが、カールは偶然にもデンマークに宣教師がいることを知った。彼はそこの伝道部長に手紙を書いて資料を請求し、パンフレットや本を入手したのであった。ていねいに

それらの資料を読んでいくうちに彼は教会の教えに興味を持ち始め、ドリスデンに宣教師を送って教会の説明をしてくれるように頼んだ。それから2か月後の1855年10月、カールはドイツのその地域で最初の教会員となったのである。

それから21年後の1876年の春、すでにアメリカに移住していたメーザー博士が、ソルトレーク市の第20ワード部校舎で教えている時、その建物が爆破された。そのことをブリガム・ヤング大管長に報告し、カールは学校を閉鎖しなくてはならないと告げた。

「あなたの言う通り閉鎖しなければなりません、メーザー兄弟。あなたには別の使命があるのですから。」こうヤング大管長は答えた。こうして、カール・G・メーザーはユタ州のプロボにブリガム・ヤング大学を創立するようにとの召しを受けたのであった。

のちに、メーザー博士は全末日聖徒の学校の総長となった。

バプテスマを受けたあの暗い夜、カールは人々と福音に対する自分の愛が、接するすべての人々の視界を広げ明るくするとは思ってもみなかった。この世を去ってすでに70年以上もたっていないながら、彼の影響は今なお教会中に見られる。

彼の生徒の子供や孫たちは、この偉大な教師の残した言葉を覚え、今日引用している。その最も有名な言葉の中に次のようなものがある。「何をなすとも、何もしないことがあってはならない。」「ありのままの自分であれ、しかし常により良い自分であれ。」

ヤコブ

メイブル・ジョーンズ・ガボットによるモルモン経物語

絵：ゲーリー・カップ

男の子には英雄として尊敬する人がいて、いつもその人のようになりたいと思っているものです。ヤコブは、おにいさんのニーファイを尊敬していました。そして、ニーファイに従って荒野を横切り、大海をわたりました。ニーファイは、ヤコブにとってすばらしい英雄だったにちがいありません。

ヤコブは、両親やおにいさんたちのように、エルサレムでの豊かな、何不自由ない生活を知りませんでした。エルサレムを出てから、荒野の中でリーハイとサラリアの間にできた子供だからです。ですから、大海への長い、苦しい旅の間、家といったら天幕だけでした。

ヤコブはお腹がすいてつかれてきました。彼はそのような時は、おにいさんのニーファイが家族のために食べ物をとってきてくれるのを知っていました。ニーファイがレーマンとレミュエルの怒りを英雄的な言葉で話してしずめるのを見ました。

ヤコブはまだ若かったのですが、お父さんのリーハイは年老いていました。リーハイは父親としての祝福をほどこすために息子たちをよびよせました。かれに息子たちに「義のよろいを着なさい」といい、ヤコブに「荒野で最初に生まれた私の子ヤコブよ。汝は神の広大なことを知っている……また汝は若い時にすでにあがない主の栄光を見たから幸福である」といいました。おにいさんのニーファイのようにヤコブも、荒々しいレーマンとレミュエルのことでひどく悲しみ苦しみました。かれらはひどく腹を立て、よこしまだったのでニーファイを殺そうと計画しました。主はニーファイに警告を与え、主に仕えたいと思うすべての人々を連れてすぐに荒野へのがれなさいといわれました。

ヤコブはおにいさんのニーファイと彼に従うすべての人々とともにいきました。かれらは何日間も旅をしました。そしてかれらがとどまった場所をニーファイとよび、その後その人々はニーファイの民として知られるようになりました。ニーファイの助けで、ヤコブは家を建てることを学び、そしてかれはニーファイが神殿をたてるのを助けました。ニーファイはヤコブと年下のヨセフを人々の祭司、教師として聖別しました。ヤコブは来られるはずのイエス・キリストについて人々に教えました。

さて、シュレムという名前の人がニーファイの民の中にやってきました。かれはたくみに話し、多くのおせじやはなやかにかざり立てた言葉を使いました。シュレムはまた多くの

真実でないことを語り、イエスに対するヤコブの信仰や証を滅ぼそうとしました。

シュレムはヤコブの所に行きこういいました。「私は汝が方々をめぐる、汝の言う福音、もしくはキリストの教義と言う教えを宣べ伝えておられる由を承知しておる。汝はモーセの律法を変えて汝の言う何百年か後にくるはずの一人の方を礼拝している。従って私シュレムは、汝の教えは神をけがしていると断言する」。

ヤコブは主のれいかんをうけてシュレムにたずねました。「聖文を信ずるか」。

シュレムが信じると答えると、ヤコブは続けて話しました「それならば汝は聖文の意味が解っていない。何故ならば聖文は確にキリストのことを証明しているからである。そればかりでなく、私は見たことも聞いたこともあり、また聖霊の力によって教えて見せていただいた」。

シュレムは、「そうであるならば、そのように多くのことを汝に教えたその聖霊と言うものの力によって、私にしるしを一つ見せてもらいたい」とたずねました。

するとヤコブは答えていいました。「どうしてしるしを汝に見せたまえということができようか。汝はこれらのことを真理だと知りながら悪魔の仲間になっているから真理を否定する。しかしながら、私の心はどうであっても、ただ神がもし汝をうち破ろうと思いたもうならば、これがすなわち神が天にも地にも権能を持ちたもうことと、キリストが降臨したもうたはずであることを汝に証明するしるしになるのである。」

ヤコブがこれらのことを話すと、主の力がシュレムを打ち彼はたおれてしまいました。それから何日かたって、かれはすべての人々に彼の前に集まるようにたのみました。というのはかれはもうじき自分が死ぬと思って、まず人々に話したいと思ったからでした。

シュレムは、自分が悪魔の力によりだまされていたことを人々にはっきりといいました。

「私は神にうそをいい、キリストを否定したからおそれている」とかれはいいました。

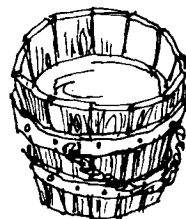
すると集まっていた人々は、シュレムの言葉をきいてびっくりしました。間もなくしてシュレムは死にました。

それからそれらの人々はヤコブのもとにかえり、神の平和と愛が再び人々の間に取りもどされたのでした。



ミルクおけ

メアリー・プラット・パリッシュ
絵：バージニア・サージェント



ノーブーの暖かく住み心地のよい家をはなれたあと、開拓者たちの最初のキャンプ地はシュガークリークでした。2週間しないうちにそこは「西部へ」旅立つ前にブリガム・ヤングからの指示を待っている5千人もの人々でいっぱいになってしまいました。

トミーとベッツィーにとってそこは町の中に住んでいるようでした。テントや幌馬車がノーブーにいた時の家々のように道路にそってならんでいたからです。それぞれの間にあるすき間は、ふぶきから守るためにかん木で屋根のようにおおわれていました。そこは食事の準備の場所となり、子どもたちの遊び場となりました。

キャンプの中央には、公園のような大きい四角の広場ができました。その一方の側のおおいのある幌馬車にトミーとベッツィーが住んでいました。2人は馬車の中から広場にもえている火を見たり、あたたまるうとして火のそばに立っている人々を、昼、夜いつでも見ることができました。

ある朝早く、トミーは広場の中央に幌馬車にのっているブリガム・ヤング大管長を見ました。そのあとすぐ「イスラエルの一行よ、聞きたまえ」というかれの巨大なたいほうのよう

な声がキャンプ中にとどろきました。トミーは、数分もしないうちにキャンプ中の人々が、ブリガム・ヤング大管長のいうことを聞くために広場へ出て行くことを知っていました。

「西部へ出発する知らせだといいいんだけど」とトミーがいいました。

「そうだといいわね」とお母さんもいいました。

しかしブリガム・ヤング大管長は西部へ行くことについて何も言いませんでした。そのかわりに、この2、3日間で800人の人々が1週間分にも満たないような食料をたずさえてシュガークリークについたが、食物のある人々はこまっている人たちにいくらか分けてあげるようにたのみました。そして聖徒たちがこれをするならば、主は必要とする食物を全部彼らに恵んで下さると、ブリガム・ヤング大管長はやくそくしました。

ヤング大管長は、男の人たちに北や南の町へ行き、道路や橋、へいを作る仕事を見つけるように、そしてほうしゅうを食物でもらうようにいいました。また羽ぶとん、時計、さら、ショール、銀食器、家具をとうもろこしや麦と交換するようにといいました。

また彼が子供たちに、食物と交換する1ブッシェルと半ブッシェルのかごをあむために、小川の岸からヤナギをあつめて手助けができると言ったとき、トミーとベッツィーはとくにうれしく思いました。

ブリガム・ヤングが「アーメン」といい終わるとすぐ、また人々が話したり、動きまわらないうちに、遠くにかねの音がきこえました。

「ノーブー神殿のかねだよ」とトミーはベッツィーにささやきました。そのかねの音はまるで予言者の話に対して主が「アーメン」といわれたようにきこえたのです。心静かにトミーはブリガム・ヤング大管長が自分にやって欲しいと思うことはなんでもやろうと心に誓いました。

集会が終わると、トミーのお父さんは、家族を自分のまわりに集めてこういいました。「長い旅が始まっているが、その旅がどこで終わるのかもはっきりしていない。ただ主が私たちをそこに導いてくださるということしかわからないのだ。そして持っているものは全部持っていくということと。問題は、困まっている人々に食物をあげるか、あるいは食物

をためておいて安心できるようにしておくのがいいかだ」といいました。

トミーは心静かにやくそくしたことを思い出していました。「ブリガム・ヤング大管長は分け与えるようにたのんだよ。それは、主がぼくたちにそうするようにのぞまれていることだと思うよ。」

「私たちが必要なとき、主はもっとたくさん得られるように助けて下さるわ」とベッツィーもいいました。

お父さんはほほえみながら言いました。「おまえたちがそのように考えてくれるのでうれしいよ。聖徒たちが食物も持たずにここにくるのをせめてはいけない。みんな春までノーザーを出るとは思わなかったので食物を用意していなかったんだからね。ある人たちは食物や必要品を買うお金を持っていたが、ほとんどの人はお金を持っていなかった。それで農場や家と他の物を交換したのだよ。たとえばジョンソン兄弟は、家をおおいのある幌馬車と牛のくびきだけと交換したのだ。彼らは食物を買うお金もなくて、あるものだけを持ってきた、それも2、3日のうちになくなってしまったのだらう。」とお父さんはいいました。

「かれは食物をかうため仕事を見つけない近くの町まで行くのよ」とお母さんがいいました。

「お父さんも行くの」とトミーはたずねました。

「そうだよ。ジョンソン兄弟とお父さんは一緒に行くんだ。朝立つからね。」

「私の銀のスプーンを持って行ってください。草がはえ始

めるまで動物たちが生きのびて強くなるように、それと荷馬車1台分のとうもろこしと交換してきて下さい。」とお母さんはいいました。

「私たちの羽ぶとも持って行っていいわ。だれかほしい人がいると思うわ。」とベッツィーもいいました。

するとトミーも、「ヤング大管長がぼくたちにたのまれたように、小川の岸にあるヤナギを集めてかごをあもうよ」といいました。

みんながお互いに話にむちゅうになっていたので、荷馬車の外にジョンソン姉妹が立っているのをだれもきづきませんでした。「私のショールとおばあさんがくれた小さなさとう入れももって行ってください」と彼女が静かな声でいったので、みんなはおどろきました。

荷馬車から品物を持ってきたとき、彼女はたおれるかのようによろめきました。お父さんは荷馬車からとびおりて彼女を助け「病気ですか」とたずねました。

「いいえ、おなかがすいているんです。私たちは2日間なにもたべてませんから」と彼女は答えました。

お母さんは、ジョンソン姉妹を急いでねかせました。「あたたかいおかゆを作る間、このカタパンを食べていて下さい」といいました。

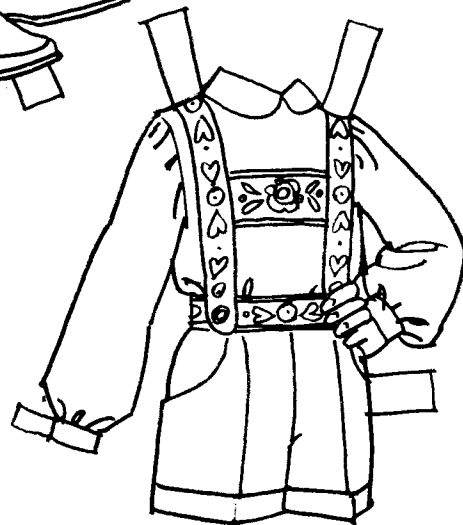
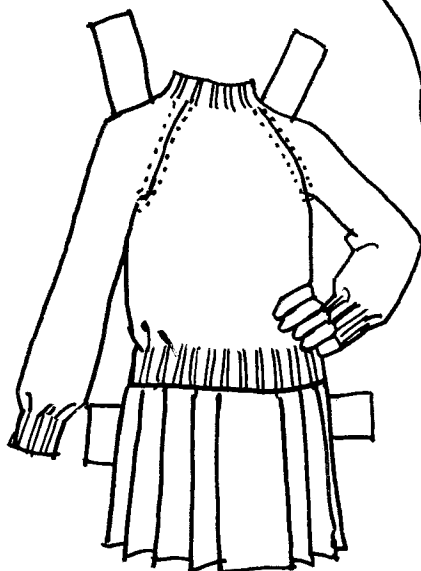
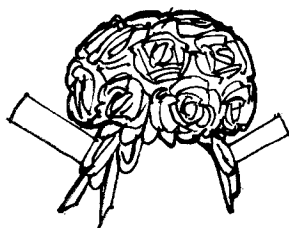
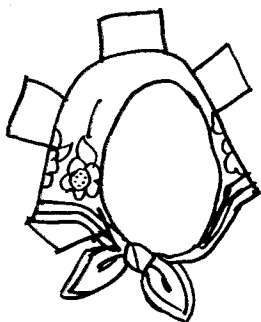
そのあとトミーとベッツィーとお父さんはジョンソン姉妹を荷馬車まで送って行きました。トミーはじゃがいも、お父さんは小麦粉、ベッツィーはミルクおけを持って。

彼女はミルクおけをはこびながら、ノープーに残してきた子ねこのことを思い出しました。心の中にお母さんがたずねるのがきこえました。「あなたが子ねこを連れて行くためにお腹のすく人たちがでてくるなんて、いやでしょう。」

ベッツィーはほほえみながら静かにつぶやきました。「ええ、いやだわ。」そしてこの時、彼女は確かに本気でそう言ったのです。



ドイツのヘルガちゃん
バージニア・サージェント





若者と伝道の召し

十二使徒評議員会会員
リグランド・リチャーズ長老

少年時代を過ごした小さな田舎町のワード部での経験は、私の生涯に大きな影響を与えた。

南部諸州での伝道から帰った2人の人が、聖餐会で伝道の話をした。彼らは、伝道中財布も袋も持たずに旅をし、彼らに夜の宿を喜んで提供する家族を見いだせない時には、戸外で眠ることさえあった。

伝道中、彼らは迫害に悩まされた。このような状況のもとで、彼らはへりくだり、主が彼らの必要を満たす友をどのように起こされたのか、多くの経験をした。

これら2人の帰還宣教師の精神に私は感銘を受け、家に帰るとひざまずいた。そして、十分な年齢になった時に伝道に行くにふさわしい生活をさせたもうよう主に願ったのである。列車がソルトレーク市の駅を離れるまで、私はこの特権を持てるよう祈り続けた。そして私はオランダへ送られた。愛する人々への私の最後の言葉は、「きょうは生涯で最も幸福な日です」であった。

その伝道に出る前、当時大管長会の補佐であったアントン・H・ランド副管長が我々宣教師と語り合い、人々は我々を

愛するであろうと語った。さらに副管長は言った。「あなたがたの心を高ぶらせたり、あなたがたが他の人々よりもすぐれているので愛されていると思ってはなりません。あなたがたがもたらすもののために愛されるのです」彼がこのように述べた時、私は彼の言葉の意味をほとんど理解することができなかった。しかし、伝道から帰る時にそれを理解することができた。

私はこの世では再びアムステルダムの子供たちの多くに会うことはないと思い、別れを告げるために彼らのもとを訪れた。その時、私は愛する人々のもとからオランダへ行った時よりも一千倍程の涙を流した。私と同僚が最初の宣教師としてある家族の家を訪問した時、小柄なその家の母親は、涙をほほにつたわらせ、エプロンにさえ落として、このように言った。「リチャーズ兄弟、シオンに行く私の娘を数カ月前に見送った時はつらかったですわ。（当時教会はアメリカに移民するよう聖徒たちに勧めていた。現在それは行なわれていない。）でも、あなたを見送るのはもっとつらいですわ。」その時私は、ランド副管長が「あなたがたがもたらすもののた

若者と伝道の召し

めに、人々はあなたがたを愛するでしょう」と言った意味を理解できた思いがした。

私は国の制服を着て立っている1人の兄弟を訪問した。彼は私の父としても十分な年令であった。彼はひざまづき、私の手をとって握りしめ、口づけをし、涙で濡らした。私は再び、ランド副管長が「あなたがたがもたらすもののために、人々はあなたがたを愛するでしょう」と言った意味を理解できた思いがした。

その伝道はこのようにすばらしい経験であった。そこで、帰って自分のワード部で話をした時、私は伝道中にこのようなすばらしい経験をし、ほとんどいつも主と共に歩み、共に語ったように思うと聖徒たちに語った。また、私がその伝道中に享受した精神を保つことができるように、主が伝道にしばしば私を送ってくださるよう望んでいると話した。

主は私の言葉に答えてくださったようである。なぜなら、教会のために4回の伝道を果たし、その内2つの伝道部を管理し、さらに多くの伝道部を訪問する恵みを得たからである。私の経験と宣教師たちとの交わりの結果、私は少年を立て、彼を伝道に行かせずにはおきたくないという結論に達した。我々は非常に多く世に負っており、すばらしい福音の真理を分かち合うために召されていると私は思う。

はるか昔にさかのぼると、我々一人一人は教会員になるにあたってある宣教師に恩があることを知るのである。私は、ブリガム・ヤングが私の祖父に福音を教えたことを知った。それであるから、ヤング大管長のいる所に行く時、私は確かに彼に感謝するであろう。もし福音が我々にもたらされなければ、私や家族や愛する人々における損失はどうであろう。

私は、すべての若者が伝道に出たいという望みを抱くべきであると思う。我々が伝道の地で宣教師たちと共に集会を開く時、多くの宣教師は喜びの涙を流す。そして彼らはこのような言葉でその気持ちを述べる。「私たちは国にいた時、帰還宣教師の伝道の報告を聞きました。彼らはこの期間が生涯で最も幸福な時であると言いました。私たちにはその言葉が信じられませんでした。でも今はよくわかります。」

東部のある若者が、アルゼンチンでの伝道の帰途、私の事務所に立ち寄った。彼は宣教師たちにその国の言葉を教えるために6カ月間長く過ごした。私は彼が伝道に出る前に彼と

その両親を知っていたので、名前で彼を呼ぶことができた。私は彼にこのように言った。「あなたは伝道に出たことで時間を無駄にしたと思いますか。もし出なければ、学業を終え結婚の準備をすることができたでしょう。」

彼は答えた。「もし兄弟たちが私を幸福にしたいとお思いなら、あすの朝私を飛行機に乗せて、アルゼンチンに送り返してください。」その時、彼は故郷で別れた愛する人々にまだ会っていなかった。

私はカナダの西北部で、以前に軍務に服していた若い宣教師に会った。これが彼の教育と就職を遅らせていると思ったので、私はそれについて彼に尋ねた。すると彼は言った。「世の中のいかなる会社や組織も、伝道に出してくれることに勝る支払いはできません。」

5人の人々のためのバプテスマ会の後、オランダのある宣教師は私に言った。「私は国にいた時、よい職に就き、行きたい時にショーやダンスに行くことができました。でも、このような経験を世の中のショーやダンスすべてに替えたいとは思いません。」

少し前に、私はアラスカ・ブリティッシュ・コロンビア伝道部長と一緒に旅行した。高校生である伝道部長の娘は、彼女の親友の1人を改宗させるのに成功した。そこで、彼女は父親に、夏休みを伝道地で過ごしたいと言った。彼は娘を姉妹宣教師と一緒に働かせるためアンカレッジに送った。伝道部長と私は、11名の人がバプテスマを受けるバプテスマ会に出席するためにそこに行ったのである。彼らの内の9名は、この娘とその同僚の改宗者であった。彼女は私のところに来て、ほほに涙を伝わせながら言った。「リチャーズ兄弟、生涯でこれほど幸せなことはありませんわ。」

オレゴン州で、私はある宣教師の伝道報告を聞いた。教会への改宗者である彼は次のように言った。「私は伝道の経験を百万ドルの小切手にも替えることはしないでしょう。」私は彼の後ろに座って自分自身に「あなたはオランダの狭い地域での伝道を百万ドルに替えますか」と問うてみた。私は、主の助けを受けて主の教会に連れ来ることに成功した家族を数えた。そしてその時、私はこの世のすべての金をもってしても教会から彼らを売らないであろうと考えたのである。

私が何年も前に南部諸州伝道部長として働いていた時、あ

る公式の集会で1人の宣教師が話をした。その若者は、190センチ程の背だけで、かつてバスケットボールの優勝チームでプレーをしていた。チームが優勝戦で勝った時、選手たちは文字通り肩を抱き合って喜んだ。その集会で彼はこのように話した。「伝道に来るまで、そのことは生涯で最大の経験でした。しかし、私は福音の回復について証を述べるこのような夜を、いままで行なっていたいかなるバスケットの試合にも替えたくありません。」

私はオーストラリアでの伝道を終えた1人の孫の手紙から一文を書き抜いた。「ここにおいては、事態は実際非常に低下しています。しかし、私は生涯でこれほど感動的で、興味深く、幸福なことはありませんと、卒直に申しあげられます。主は確かに私を祝福してくださっています。」伝道に行く前の中学校時代には生徒会長をし、高校時代にクラスでミスターフットボールまた最優秀選手に選ばれ、フットボールとバスケットボール・チームの主将であったことを知ると、このような証はより一層意義深いものである。彼はまた、全教会バスケットの優勝チームの一員でもあった。

私がこれまで述べたこのような気持ちは、主のみが宣教師の心の中に与えたもうものである。

十字架の刑の後、すべての造られたものに福音を宣べ伝えるよう世に使徒たちを送った時、主は言われた。「見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」(マタイ28:20)そして、すべての忠実な宣教師は、主がその約束を果たしておられることを証できるのである。

救い主の約束の成就を経験してきた人々は、昔のアルマの言葉の意味を体得するのである。「ああ私が天使になって私の心の願いを達することができたら善いものを。私の願いとは出て行って神のラッパのように地を震わせる声で話し、万民に悔改めをすすめることである。」(アルマ29:1)

ユタ州にきたスカンジナビアの家族についていつも話をしていたヒーバー・J・グラント大管長の話に、若い頃、私は深い感銘を受けた。その家族は福音について多くは教えられていなかった。彼らが知っていたことは、それが真実であるということだけであった。そこで監督は父親のところへ行き彼に什分の一の律法を教えた。すると彼は什分の一を払った。次に、監督は彼に断食献金の律法を教えた。すると彼は

断食献金を払った。次にある時、監督は教会堂の建築のための献金を依頼した。彼はそれが什分の一から出されるべきだと思ったが、十分な説明を受ける前に教会堂建築のために献金をした。次にある時、監督は伝道に行くよう彼の息子を召すために彼のところに行った。すると彼は言った。「そんなことはできっこありませんよ。息子を手離すことはできません。彼はただ1人の子供ですよ。」そこで監督は「兄弟、あなたは家族以外でこの世の中でだれを最も愛していますか」と尋ねた。彼は考えた後「白夜の地に来て、主イエス・キリストの福音を私に教えてくれた若いモルモンの宣教師を愛していると思います」と言った。監督は尋ねた。「兄弟あなたが若いモルモンの長老を愛しているようにだれかにあなたの息子さんを愛してもらうには、どのようにすればよろしいでしょうか。」監督、あなたのおっしゃる通りです。彼を連れて行ってください。伝道の費用は出します」というのが彼の答えであった。

実際に天に宝をたくわえたければ、伝道に従事すること以上によい方法はないと思う。改宗者は、この世の生涯に渡って、また来るべき永遠を通じて彼を愛するであろう。

人生における真の成功は、金銭やこの世の富で測ることはできない。イエスは言われた。「人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか。」(マルコ8:36)

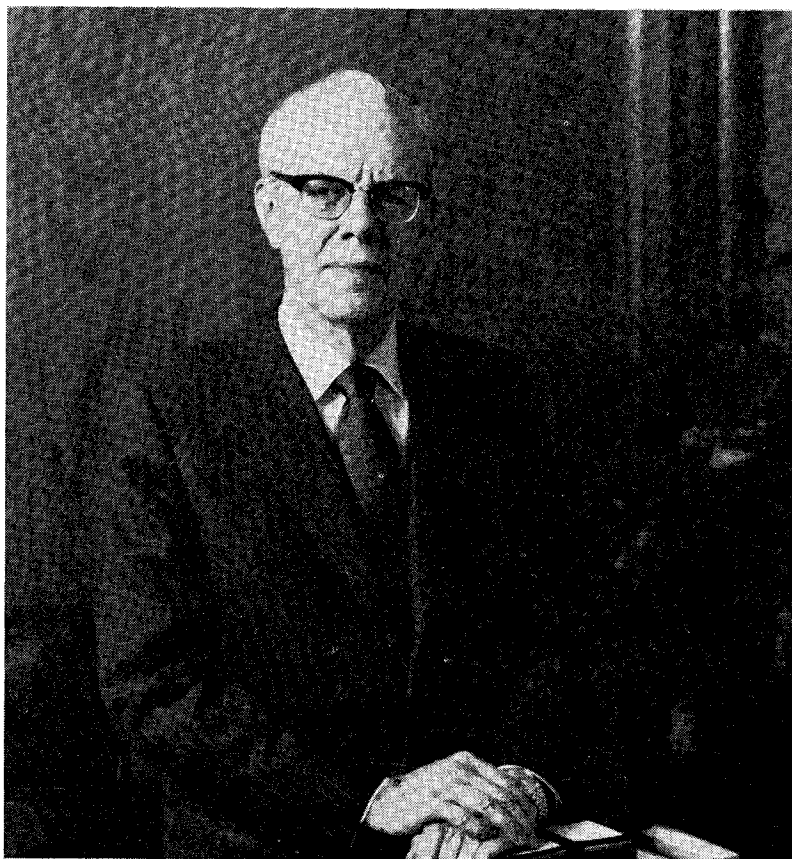
「またほかの人に、『わたしに従ってきなさい』と言われた。するとその人が言った、『まず、父を葬りに行かせてください』。彼に言われた、『その死人を葬ることは、死人に任せておくがよい。あなたは、出て行って神の国を告げひろめなさい』。」(ルカ9:59-60)

その後、主は行こうとしておられたすべての地に七十人をふたりずつつかわされた。「収穫は多いが、働き人が少ない。だから、収穫の主に願って、その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいなさい。」(ルカ10:2)

その当時収穫が多ければ、今日はどれほど多いことであろうか。このことからして、多くの宣教師が必要である。私はすべての若者が伝道に出たいという望みを抱くべきだと思う。それは、他ではみいだせないほど、御父の王国とこの世にあって有益な奉仕の生活を確立する基礎となるであろう。

第141回半期総大会における説教

これはリチャード・L・エバンズ長老の最後の主たる説教である。エバンズ長老がこの話を終えたのち、大管長会ハロルド・B・リー副管長は、話が若人にとって、時に適した偉大な説教であるとの評を呈した。エバンズ長老がいかに深く若人を愛していたかを知ると、この説教で彼がまず若い人々に語ったと見るのは妥当である。そして、彼の言葉を聞いた人々は、彼がさしせまった証を述べているかのように語ったことを知っているのである。多くの点で、この説教は傑作である。それは来たるべき長い年月の間生き続けるのみならず、エバンズ長老の意図した通りに、すなわち、多くの人生を変えることであろう。



戒めは書き直されるべきか

十二使徒評議員会会員

リチャード・L・エバンズ長老

最近受けた興味ある質問と、これまた興味深い答えを紹介して話を始めようと思う。質問は、「あなたはいましめを書き直すべきだと考えませんか」というものであり、その答えは「いいえ、いましめは読み直すべきです」というものである。

これは、基礎的ないくつかの事実について考えさせるよい問題である。す

なわち、ここに神のいましめがある。いましめは、神のもとから出た。歳月の経験がいましめの必要を立証し、それを無視することの結果をも証明している。

それであるのに、合理化していましめを捨て去ろうと努め、不満と不幸と悲しみと悲劇の中に人生を送るのはなぜか。

十戒から始めることもよいであろう。十戒を繰り返し読み、それらが本当は記されているような意味ではないと自分に信じこませる人生は過ぎさないがよい。

いましめのあるものは、してはならないと言う。それが言いたいことであるならば、それは意図であり、それには理由がある。

いましめのあるものは、これをせよと言う。そこにも理由があるのである。

いつか天の御父が我々にせよと言われていることと、してはならないと言われていることの表を作るとおもしろいことであろう。両親についても同様であり、医者についてもそうである。

福音の本質はこれ、すなわち生ける御父がその子供たちに語られる勧告である、「あなたは限りない永遠の可能性を持っている。また自由も持っている。それは、あなたの使い方しだいである。これは、あなたが私の助言を聞いた時になり得ることである。またこれは、聞かない時に起きることである。選択はあなたのものである」と。

我々は皆、毎日選択を行なう。我々は皆、自分の選択の結果を受けねばならない。

それは至極単純である。神が言われた事柄をおろそかにしながら、奥義について、細かなことをあげつらったり言いのがれをしたり議論したり、神が言われていない事柄について思索したりするのは、問題ではない。いましめや求められていることに不平を言うのをやめ、ただ事実をみつめたまえ。

創造主と我々の御父以外のだれが、大事なこと、大事ではないことをすべてよく知っているのであろうか。

幾世紀を通じて、賢人や哲学者、その他の人がそれらの質問ととりくみながら、彼ら自身の間で一致できる答えは1つも出されていない。

私は、学問に、教育、研究に、また誠実な探究者たちのなしたすばらしい業績や研究の成果に大いなる尊敬を払うものである。しかし私はまた、神のみ言葉と、神の予言者たち、人生の目的についても大いなる尊敬を抱いている。そこで、我々の信頼をどこに置くべきかが問題となるのである。

私は恵まれて、150近くの国の最も有能な人々、すなわち各派の宗教家、

弁護士、医師、業績豊かな人々を知った。しかし、私は、自分の永遠の生命をあずけるに足るという人に会ったことがない。

時々、人は聖句の意味をあいまいにし、正当化し、合理化し、してはならないとよく承知していることを行なう。彼らはこのように言う、「姦淫してはならない」というのは、その他のいろいろな不道徳を含んではいない。たとえば知恵の言葉にしても、人にとって良くないことがはっきりしているものや商品、飲物、製品などを全部言っではいないと。

明らかに、それらを全部あげることではできないであろう。ベンジャミン王の言葉にある、「終りにのぞんで、私は罪を犯す手段をみなあげてお前たちに話すことはできない。罪を犯す手段方法はいろいろあって、数えつくすことができないほど多いからである。」(モーサヤ4:29)

主は我々に、知恵と常識を用いて、人の体や心や霊や道徳に良くないとはっきりわかっているものを、言いのがれしないようにと期待しておられる。何かをしたり、参加したりする前に、立ちどまって正直に尋ねてみたまえ。「これは健康に良いか。幸福に結びつくか。神を喜ばせることか。自分と人を益することか、あるいは自分を低くするものか。それは良いことか、悪いことか」と。

人がそれをどう言おうと関係はない。それが何か、自分は何をするのかの問題である。もしシェイクスピアの言葉を真似て言うなら、何を何と呼ぼうとそれはあるがままのそれであり、あなたがそれを何と呼ぼうと、そのなすことは変わりはない。

もし、聖典に道徳的な罪が皆とがめられていないことをいぶかしく思うならば、我々はあなたに、すべての悪事すべての汚れや墮落した物事、すべて清くないこと、すべて愚かな習慣、ふ

さわしくない振舞いをやめよという聖句があると言おう。

なぜ言いのがれをするのか。なぜ単純に事実を受け入れ、自分に正直にならないのか。

「……神を恐れ、その命令を守れ。これはすべての人の本分である。」(伝道12:13)

救い主は言われた、「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。」(ヨハネ14:15)

しかしまた、我々はただ自分の益となるためにもいましめを守るべきである。

何年も前に、エマーソンは「つぐない」と題するエッセイを書いた中でこう述べている。

「世界は九々表や方程式のように見える。あなたがいかにかひねくりまわしても、それ自体釣りあっている。……

秘密はみな語られ、罪はみな罰せられ。徳はみな報われ、悪はみな矯正される。沈黙のうちに、そしてたしかに。……

原因と結果、手段と目標、種と実は過酷とはならない。結果ははや原因の中に開花しているからである。……実は種の中に……。

あなたは何を持つのであろう。神はのたまうた。代価を払って取り分を取れ。……汝、なしただけものを多からず少なからず報われるべしと。……

人は語れず、己れを裁くのみ。……すべての考えは、その主張者に返ってくる。……

あなたは悪を被らずして悪を行なうことができない。……

盗人は自分から盗む。詐欺師は自分を欺く。

……代価なしで得るのは不可能である。……

罪を犯してみよ。それは森の中にウズラやキツネ、リス、モグラの跡をみな表わす、土に積もる雪のようであ

る。あなたは、手がかりを残さぬようにと口から出た言葉を呼び返すことはできず、足跡をぬぐい去ることはできず、はしごを引きあげることはできない。

……我々は誘惑に対抗する力を得ている。……

人は一生を、欺かれ得る愚かな迷信のもとで送る。しかし……人は己れ以外のだれにも欺かれることはできない……」

私は、エマーソンと同様のことを述べた短い言葉を、リー副管長から聞いたことがある。罪人の成功者はいないと。これは、考えてみるべきよい言葉である。

つぐないの律法が人生に築き入れられた時以来、我々は常に時間をとってたちどまり、自分のなすことできないこと、また何をしたいかを見つめ、考えるべきである。

これは若い人々に言いたい。世には神のいましめは役に立たず、被っても重大な結果はもたらさないと、言葉巧みに言う人々がいる。

しかし、だれが真理を語っており、だれに従うべきかを知る目じるしがほしいならば、いつもこう問いなさい、「この人の言っていること、私にさせようとしていることは、私に幸福と平安をもたらし、より高い可能性へと導くものだろうか。それとも私を卑しい側へ導くものだろうか。」

理想をこわし、いましめを拒み、あなたを低い水準に導こうとする人には従ってはならない。

私は、いつかヒュー・B・ブラウン副管長の質問を聞いたことがある。それは「あなたは悔い改めたいですか、それとも正当化したいですか」という質問であった。

クロムウェルの言葉を引用すると、「私はあなたにお願いする。……あなたが間違ふこともあると考えなさい。」

もし自分のしていることが自分を肉

体的、精神的、道徳的に低めているならば、あるいは自分の平安を乱し、天父から引き離し、永遠の生命を害しているならば、あなたは間違っている。

ジョン・ラスキンは「高慢が大きな誤ち、すべての底にある」と言った。

少なくとも、高慢は悔い改めを邪魔する大きな障害物である。なぜなら、まず失敗を認めなくては、誤りを正すことができないからである。

神が、愛する若い友だち、あなた方を祝福され、あなた方と共にいまして高慢に打ち勝つ議題を与えたまい、誤ちを認め、正すことができるように。

両親を敬いなさい。彼らに信頼しなさい。自分自身を尊びなさい。神を敬い、神の与えたもう知識を重んじなさい。人生を賭けてはならない。人生は我々の持てるすべてである。

誘惑に誘われてはならない。危険や悪にどれだけ近づけるか、絶壁にどれだけ近よれるかを、愚かにも試してみてはならない。してはならないこと、行ってはならない所、参加すべきではないことから、遠ざかっていなさい。

そしてもし、あなたが袋小路や悪い道へ踏み込んだとしても、できるだけ早く戻って来なさい。今すぐに。そして神に、悔い改めの原則を感謝しなさい。

すでに知っていることを、あちこち見まわしながら、目的なく走ってはならない。現代の詭弁や誘惑に従って生きてはならない。体を破壊し、心を低める物事にかかずらってはならない。故意に、物的、精神的に自分の最善よりも劣ること、汚れた清くないことを見てはならない。

両親たちよ、子供らの前に正直と誉れと、清さと正義と、義務への献身の模範を示しなさい。

子供たちよ、両親を愛し、敬いなさい。彼らはあなたに命を与えた人である。彼らは、あなたのためならば死ぬ

であろう。家族の人よ、愛と親切をもって、家庭を維持し、互いを誇りとし家族の一員であることと、自分が今あることを感謝できる伝統を築いて、共に近くありなさい。

いましめは書き直されるべきであろうか。いや、そうではない。いましめは、我々が健康と幸福と平安、自尊の心を欲するならば、読み直され、我々の生活の指標、標準となるべきである。

私は、何カ月前かにある愛するステーク部長の語った言葉を覚えており、ある思いを心に刻まれたことを感謝している。彼はこのように言った。「私は迷った羊や牛をさがしに、父親と馬を並べて出かけたものです。山の尾根に登って遠くの洞穴や木立を見わたすと父は言いました、『あそこにいる』。」ステーク部長は続けた、「父は私より遠くを見ることができました。私に見えなかったこともよくありました。しかし私は父がそう言っているので、羊たちがいるとわかりました。」

愛する兄弟姉妹、御父がそう言われるので、私が知り、あなた方の知っていることはたくさんある。神が生きておられ、我々をその形にお造りになり、神の御子、我々の救い主をつかわして、我々に人生の道を示し、我々を死より贖われたことを、私は知っている。私は、我々が受け入れるだけ神が我々の生活に入ってこられること、神の教会、福音、生命の道がこの地上に我々と共にあること、我々は神の勧告を受け入れるならば、最高の可能性を実現できること、そしてもしそのいましめに逆らうならば、自分がなれたはずのもの、持てたはずのものを失ってしまうことを知っている。神があなた方を祝福し、常にあなた方と共にいますよう、イエス・キリストの御名によって祈りたてまつる。アーメン。

最近、2人の末日聖徒の青年が訪問先の町の通りを歩いていました。

「ああ、シュミッド兄弟。」2人のうちの1人が、彼らの方に向かって歩いて来る男の人に声をかけました。「ここで何をしていますんですか。」

2人は非常にうれしそうにあいさつを交わし、もう1人の青年は紹介はされたものの、2人の会話に立ち入る余地はまったくないようでした。彼はじっと様子を見ていて、この2人が非常に親しい間柄であることがわかりました。数分して別れを告げ、その男の人が去って行ってから1人が相手にこう尋ねました。「彼は君の監督かい。」その青年の答えはこうでした。「いや、ぼくのホーム・ティーチャーだよ。」

では、あなたとあなたのホーム・ティーチャーはどうでしょうか。お互いによく知っているのでしょうか。あなたは自分のホーム・ティーチャーがだれかわかりますか。もしそうでないならそれはだれのせいでしょうか。あなたのせいですか。ホーム・ティーチャーのせいですか。それとも2人の責任でしょうか。

ホーム・ティーチャーも含めて人々の中には、相手に気づかっていることを自分から知らせようとする人々がいます。また気づかっているにもかかわらずそのことを相手にあまりはっきり表わさないホーム・ティーチャーもいます。さらに気づかっているにもかかわらずそれを示そうとしない人々もいます。

では、あなたはどれにあてはまるでしょうか。私たちはみな自分から進んでしようとしなければ、だれとも友だちになれず、まただれにも助けを得られないのです。

遺憾ながら、若者の中には「立入り禁止」と言って、ホーム・ティーチャーが自分たちの生活に立ち入るのを拒む人々がいます。

もしあなたがホーム・ティーチャーの訪問に関心を持ち、熱意を示さなければ同じく「立入り禁止」と言っていることになります。

またもし教会や他の所でホーム・ティーチャーと会っても、進んであいさ

つしようとしなければそれも同じです。

あるいはまた、教会での話や自分個人の問題など、彼らが手助けできる事柄にアドバイスを求めなければ、彼らに同じように「立入り禁止」と言っていることになるのです。

また、神権による灌油の儀式が必要な時、家庭外での助けが必要な時に助けを求めなければそれも同じです。

そしてまた、ホーム・ティーチャーの知らない事柄をしたりしなかったりすることによっても「立入り禁止」と言っていることになるのです。

不幸にも、ホーム・ティーチャーを自分たちの生活から遠ざけている人々は、教会組織の最も大切な要素の1つを無視しているのです。ホーム・ティーチャーはあなたにとって主の代理人であり、教会だけでなく監督を代表する人々なのです。

ホーム・ティーチャーは、教会員を助け祝福するために召され任命されました。ですから主は、私たちの手助けができるように彼らを導かれるのです。それが大切なのです。彼らには手助けができそうもないと思うでしょうが、その機会さえ与えるなら、つまり彼らをあなた方の生活に立ち入らせさえするならば、あなた方は自分と教会組織のつながりを強くするばかりか、あなたのホーム・ティーチャーをも強くするのです。あなた方にはそうする責任があるのではないのでしょうか。

もし自分のホーム・ティーチャーがだれなのかわからなければ、すぐに監督か支部長に聞いて下さい。そして彼らの名前と住所、電話番号などを家の掲示板にはっておくか、手帳に記しておいて下さい。

もし彼らを受け入れるなら、2人のホーム・ティーチャーはあなた方の生活にかつてなかったほど多くの祝福を与えてくれるでしょう。そしてあなたは2人のすばらしい真の友を得るのです。2人ものすばらしい真の友人を必要としない人に、私はいまだかつて会ったことはありません。

あなたと ホーム・ ティーチャー

神権ホーム・ティーチング
委員会幹部書記
ジョージ・デュラント



この記事は、教会の教義を教えるためではなく、読者にとって参考となり何らかの助けを与えるためのものである。

質 疑 応 答



解答：ブルナー兄弟

「福音の標準と一致しない結果が起きそうな場合、自分の才能を職業にいかすのにどのような態度をとるべきですか」

幸いにも、現在私の仕事では、与えられた任務と教会の標準の間に矛盾を感じたことはありません。しかし、多くの娯楽産業の場合はそうではないことに気づいています。

私がグループシンガーとして働いていた時、よくテレビやラジオのコマーシャルで歌うよう呼ばれました。私はいつもタバコや酒類、お茶の宣伝をするコマーシャルに呼ばれないようにと願ってしまし

た。そして幸いにもそのようなことのために呼ばれないで済みました。この職業は非常に競争が激しく与えられた仕事をほとんどしない者は、すぐに「無用の者」と考えられて仕事のできないランクに数えられますが、たとえそのようなことがあっても、私はそのような類のコマーシャルに出ることを拒んだらうと確信しています。

1人の神権者として私は、もし成人向き映画のためにあるスタジオから音楽の作製を依頼されたら、そのような映画の製作や宣伝のために、神から与えられた才能を貸すことは正しくないと感じます。そのようなフィルムを見にゆくことは正しくないと考えますし、ましてそれを認めるようなことはしたくありません。リチャード・L・エバンズ長老は次のように言っておられます。「悪が存在できる理由の一部は、それがもうけをもたらすように見せかけるからである。……もし我々が人に良くないものをうしろだてしたり、ひいきにするなら、それが利を占めるのを助長しはびこらせることになる。」

成人向け映画を見ないことによって、私は自分の活動分野と教会の標準の一致を保ってきました。ある程度興味ある音楽を製作する機会を失うかもしれませんが、しかし、私には、自己を改善するこの世の時間がほんのわずかしかなないように思われるのです。また、天父なる神は、我々が福音を通じて魂や霊性に有害であると知ったものを、我々の心に植えつけようとも、また他人の心に我々が植えつけるのに力を貸すようにとも望んでおられないし、その天父なる神が喜ばれることに向かって我々が邁進するには余りにも時間がわずかなように私には思われるのです。

ロバート・F・ブルナー
南カルフォルニア地区
MIA音楽委員長
ディズニースタジオでの
4人の作曲家の1人

「女性はどういうにして神権にあずかるのですか。神権は未婚の女性にどのように適用されるのですか」

ジョセフ・フィールドング・スミス大管長は、神権とは、人の救いに必要なすべてのことを行なうために人に委任された神の力、権能であると言われました。神権は教会のすべての会員、男性であれ女性



であれ、幼児や青年、既婚者または未婚者、いずれの会員にとっても恩恵として与えられるものです。

末日聖徒の女性はいつも神権の祝福と特権にあずかってきました。次にあげる事柄は、私が(1)両親のもとで、(2)夫と共に、また(3)現在は夫がもはや生存していない状態で、神権の祝福にあずかったいくつかの明白な点です。

1. 私の先祖は神権の力と権能によって福音を教えられました。そしてそのことによって、今日、私は教会の中で生活できるのです。

2. 私が生涯を通じて認められ祝福されるように父によって命名され祝福を受けました。

3. 私は罪の許しのためにバプテスマを受け、それによって、天父なる神の王国への扉が開かれたのです。

4. 私は按手確認され、聖霊の賜物を受け、それによって真理と誤りを識別でき、生涯導きを受けることができるのです。

5. 神権者が執行する聖餐にあずかることにより私は天父なる神と交わした誓約を新たにし、主のたまをいただく特権を持つことができます。

6. 私は神権の権能を持つ手で祝福師の祝福を受けました。それは私の忠実さに対して断言されたもので、進路と慰めと同様に特別の知識を与えてくれました。

7. 私は監督やホーム・ティーチャーのような霊感に満ちた神権者から忠告や勧告を受けました。

8. 私が病にあったり、悲しみや苦しみにあった時、祝福を受け慰めを与えられ、いやしさえ受けました。

9. 神権の力により、神の認可と祝福をうけて、罪の許しを得ることができます。

10. 神権の権能によって神に仕えるよう召され、私の心はそのような機会を通じ大いに広められるのです。

11. 神権の力によって悪の力が妨げられ、追い払われるのを目撃してきました。またそのことにより私は平安と安寧を与えられるのです。

12. 私は一人で生活していますが、ホーム・ティーチャーが特別な働きをしてくれるので、祝福されています。

以上のことは、私が神権の祝福にあずかっている多くの方法のほんの一部にしか過ぎません。これらのすべての特権が、そしてそれ以上のものが男性にも女性にも、既婚者にも未婚者にも等しくやってくるのです。結婚は女性が神権の祝福にあずかる唯一の必要な手段ではありません。日の光栄の結婚や永遠の家庭、家族を築きあげすることは、もちろんこの地上において神権につける最高の祝福ではありますが、結婚それ自体がその祝福を保証するものではありません。

メルケゼデク神権者と結婚している女性は、祝福してもらえよう、そして必要な神権の儀式をとり行なってもらえよう、夫にたよることができるし、またたよらなければいけません。独身の女性や、神権の働きをとり行なう権能を持っていない夫と結婚している女性は、権能を有している兄弟、すなわち父親、ホーム・ティーチャー、または神権指導者にそのような祝福を与えてもらうよう要望する権利があるのです。

神権者はそのような要望にこたえる神聖な責任があります。「神権の権能は天の能力と固く結びつき離るべからざるものにして、天の能力は正義の原則によりのみ支配し運用し得るものなり」（教義と聖約 121：36）とありますが、男性が神権を持つということ、いついかなる時でも靈感を受けられるよう価値ある者でなければならないとは、何と大きな責任ではないでしょうか。

あらゆるものが完全になる日を待ち望んでいるすべての少女は、自分自身を備え、神聖な神権の働きにあずかり、それにより祝福を受けられるようにしなければなりません。

ホーテンス・H・チャイルド
成人調整委員会委員

「教会が支持したり、あるいは我々が支持するのを許可されるような運動に対して、教会内でなぜキャンペーンのために青年運動をしてはいけないのですか」



解答 ブラウン兄弟

教会には、教会の若人がキャンペーンする以上の種々の目的や運動があります。末日聖徒の若人はそのような目的や運動のためになんらかの働きをしています。末日聖徒の若人が主義や運動を支持していないなどと言うことは教会の若人のプログラムを理解していないことを示すもので、教会の若人は、たとえば、伝道活動から教育の追求にいたるまで、多くの目的や主義主張を支持し、それに参加しています。我が身に、イエス・キリストのみ名を引き受けている我々以上にイエス・キリストの主義主張を支持している者はほかにいません。しかし、世の一般の人々の多くのキャンペーンと、教会の指導のもとに行なわれる末日聖徒の若人のそれとは相違があることを知る必要があります。主の家は秩序の家です。もし教会の組織を通じて行なわれるとすれば、会員のあらゆる活動は秩序正しく行なわれなければなりません。

また教会は行動する教会であって単なる口先だけの教会ではないことを知ることが大切です。1970年このソルトレークの盆地に、教会の若人がいかに良い目的、運動を支持できるかの模範が繰り広げられました。ある黒人の宗教団体が礼拝堂を完成するのに非常に困難を感じていました。彼らは我々の教会の指導者に援助を求めてきました。これは、アロン神権者の若い年代の男女が一つになって、助けを求めている他人のために基金作りをやるのに素晴らしい機会であると思われました。この隣人を助けるのに何千ドルもの基金を作るため、文字通り幾千人も

のモルモンの若い男女が、洗車や赤ん坊のおもり、芝刈りなどに従事しました。最後にこの基金獲得運動のために多くの監督の青少年委員会と黒人団体の代表者が集って、素晴らしい食事会を開きました。プラカードをおしたてての行進もなければ、シュプレヒコールもありませでした。むしろ各自の組織の指導のもとで秩序整然と、それでいて熱意をもって行なったのです。これは「良きサマリヤ人の働き」としてふさわしいものですが、前述の末日聖徒の若人は、他のモルモンの若人にいかに良い目的や運動を支持できるかの模範を示してくれました。

今日、社会は声の大きいグループに大げさに注意を払おうとしているように思われます。種々の働きをしている静かなグループを見る時、私は、教会の若人が世に認められようという関心を持たず、むしろ静かに、秩序整然と、品位を保って、効果的に、救い主が「人は努めて善き業に従い、多くの事をその自由意志によりて為し、多くの正しき事を為し遂げよ」（教義と聖約58章27節）と言われた通りに物事を果たすよう望みたいものです。

監督の青少年委員会とステーク部のMメンとグリーナーの評議会は、教会の若人に橋わたしする二つの評議会です（12才から25才）。この評議会にあなたの代表をさしむけ、何か良い仕事、目的に参加するようあなたたちの希望を表明させて下さい。あなたたちの参加を歓迎しないような代表は1人もいないと思います。

ビクター・L・ブラウン
管理監督

「日曜日はいったいどの程度が安息なのか」

おそらくだれであっても関心のある人は、かりに自問自答であってもこの質問をしてみたに違いありません。また、この戒め以上に独特にしるしてある戒めはないので、人は「……七日目はあなたの神、主の安息であるから、なんのわざをもしてはならない。……」（出エジプト20章10節）という戒めを一層一貫して強調するかも知れないし、あるいは概してこれを無視するかも知れません。

主の戒めを守りたいと望む人々の間に、広いそしてまじめな意見の相違があるのを認めることは健全なことです。そのような意見の相違は理解できます。解釈には適正な範囲があるのであって、聖典の

光に照らして解釈する必要があります。

あなたの良心に照らして、合理化し、正当化し、へりくつをつけることもできるし、主に耳を傾けることもできます。すなわち「もし安息日にあなたの足をとどめ、わが聖日にあなたの楽しみをなさず、安息日を喜びの日と呼び、主の聖日を尊ぶべき日となえ、これを尊んで、おのが道を行わず、おのが楽しみを求めず、むなしい言葉を語らないならばその時あなたは主によって喜びを得、わたしは、あなたに地の高い所を乗り通らせ、あなたの先祖ヤコブの嗣業をもって、あなたを養う。これは主の口から語られたものである。」(イザヤ58：13-14)

この聖句や他の聖句が意味しているのは、安息日の目的は霊を養うことにあるということです。私の霊を養うものが、あなたの霊を養わないかも知れません。しかし、もし我々双方が、安息日の目的について確かな見解を持っているなら、はかりの針は適当なものとなり、相対的に正確なものとなります。「おのが道を行なわず、おのが楽しみを求めず」という戒めは、ゴルフ、スキー、映画、野球、その他



これに類するものをあげているのではないのでしょうか。私には、そう思えるのです。

スザンナ・ウエスレーは息子のジョンにあててこのように書きました。「その楽しみが正当か正当でないかを判断する際に、次のような規準を用いたら良いでしょう。なんであれ、あなたの理性を弱めるもの、感じやすいあなたの良心を傷つけるもの、神に対する意識をにぶらせるもの、霊的なものに対する好みをとりさるもの、肉体をして精神の上に力をふるわせるようなもの、それはあなたにとって罪であるということです。」

この標準を用いて、各自、主の日に何をなすのが

最上か、自分のために決められるでしょう。このことは、その荷を主が考えておられるように、各人の双肩に置くことになります。

安息日にする多くの活動にこの規準を用いて下さい。なぜならあなたの霊的腐敗は、故意にと同様、確かに不注意によっても起きるかも知れないのです。人生のより高い喜びを得るには、自己訓練と自己統御が求められます。

私の13才になる息子にとって霊的成長の妨げとなつたような活動は、彼が若かったための問題ではありません。成熟さを増してゆくには、より適切な解釈が必要なのです。

我々は種々研究し学ぼう導かれてきましたが、安息日に学ぶ最良のことは、霊的なことではないでしょうか。ある大学生は、週の6日間勉強して、日曜日、気分を一新するようにしたら、もっと良い成績がとれると主張しています。これは偶然ではありません。主の方法なのです。やってみようではありませんか。「……主は六日の間に天地を造り、七日目に休み、かつ、いこわれた。」(出エジプト31：17)

束の間のこの世にあって、我々は、毎日物質的なものの必要性や欲求とかかわりあわねばなりません。全知全能の天父は、このことを見越されて、我々の多くが、究極的に最も大事な霊の養いの時間を失うことのないように特別な日を設けて下さったのです。ウィリアム・E・ベレットはこのように言っています。「神は、安息日を破ったことについて、我々をむち打ったり、とがめだてするため待っておりにはならない。我々の現在ある姿が、報いや罰をうけるに充分なのである。」

このことが真の精神です。すなわち、安息日は我々の良きことのために設けられたものであって、霊を奴隷のようにしばりつけるためではありません。霊を養うためです。霊が養われる時、安息日は主がお考えになったように、すばらしい祝福になるのです。

主は言われています。「あなたがたはわたしの安息日を守り、またわたしの聖所を敬わなければならない。……あなたがたと結んだ契約を固めるであらう。……わたしはあなたがたのうちに歩み、あなたがたの神となり、あなたがたはわたしの民となるであらう。」(レビ26：2，9，12)

ラッセル・C・ハリス
イースト・ミル・クリーク・ワード部監督、弁護士

この30日間に英国、南アメリカ、南アフリカ、そしてここ北アメリカの宣教師や教会員にお会いできたことは、恵まれた特権であった。我々が顔をあわせる時には、いつも同じ問題が聞かれる。教会員、特に宣教師はよくこの言葉を耳にするのである。「何がイヤかといえば、それは、自分だけが正しくて他の人は皆間違っているという人です」と。もちろん、彼らはこの教会だけに権威が授けられているという発言に抗議を唱えているのである。

さて、無論私はなぜ人がそのような感じるかを理解している。しかし私なら彼にこう言うであろう。「待って下さい。ちょっと考えてみて下さい。あなたはさまざまな宗教の中で、真実のものがいくつもあると思えないと言われるのですね。」

このような言葉は無神論者を引き起こす。

もう1つの見解として最も広く支持されているのは、宗教はみな良いもので、どれも似通っているという考え方である。宣教師への返事の代表的なのは、「私は教会に行っています。どの教会もみんなよいものですし、どこの教会に行っているかは問題ではありません。とにかく最後には同じ所へ行くのです」という言葉である。

真剣に考える人は、そのような立場をとらないことは確かである。しかしそれにもかかわらず、多くの人は少しそれを応用してみたり、生活の他の面に関連させて考えたりせずに、その立場を受け入れる。たとえば彼らは、教育に関してそれと同じ立場をとろうとはしない。どの学校も同じで、どの学校でもどの専門でも、どの位行っているのも同じ卒業証書をもらう、と言ったら、笑わない人がいるであろうか。

ある学校である専門課程をとりながら、建築でも法律でも医学でも望む学位を与えることに、あなたは賛成するであろうか。そのような態度は、必要な課程を学んでも学ばなくても、良い医師になれるとする態度である。真剣に考える人はそのような立場をとらず、あなた方も私も訓練を受けていない、あるいは未熟なと言ふべきかもしれないが、そのような外科医に執刀してほしくはないことであろう。

それでは、大勢の人がこのような考えを宗教にあてはめることはおかしくないであろうか。彼らは、どの学校へでも行きなさい。どの専門でもとりなさい、あるいは学校へ行かなくともよい、私たちはみな最後には同じ天の位へ行けるのだと、主張するのである。

それは理にかなわず、真実でもな

い。

末日聖徒イエス・キリスト教会は地上で唯一の真実の教会であるという立場は欠くことのできないものである。おそらく、もし我々がそれを避けたなら、もっと都合よくあたりが良く人気が出るであろうが、しかし我々は断じて守るべき聖なる責任と神よりの信頼を受けている。それは単に承認するのではなく、積極的に宣言するものである。実に基本的な事柄であるだけに、我々はこの点について譲ることはできない。

さて、我々を愛のない者とみなす人々に対して、それは我々自身の考えではなく、主によって述べられたと言おう。主は初期の兄弟たちにこの戒めを与えられたからである。

「……この教会の基礎を置き、人に知られぬ所よりまた暗き所より、全地の面に於ける唯一の真にして生命あり、而も主なるわれの悦ぶこの教会を明るみに出す能力を与えらるるを得。われ悦ぶとは一人一人を指すにあらずしてわが教会員全体に就きて言えるなり」
(教義と聖約1:30)

さて、このことは、他の教会がすべて何の真理も持たないというのではない。他の教会も幾らかの真理を持っており、そのうちのある教会は多くの真

唯一の真実の生ける教会

十二使徒評議員会会員

ボイド・R. パッカー長老

理を有してもいる。彼らは神を敬う態度を持ち、聖職者や信者たちは献身的で、多くはキリスト教の言う諸徳を実によく実践している。しかしそれでありながら、彼らの教会は不完全である。主の言葉によれば、「……彼らは人の誠命を教えとして教え神を敬う様をすれども神の力を否む」のである（ジョセフ・スミス2：19）

福音はピアノの鍵盤になぞらえることができよう。よく訓練を積んだ者が全鍵盤から選んで弾けば、際限なく曲をかなでられる。バラードは愛を表現し、マーチは活気を呼び、快よい調べは心をなごませ、讃美歌は靈感を与えそれぞれの雰囲気にあい、それぞれの要求にあわせて限らない変化がある。

では、全鍵盤を使えば際限のないハーモニーが生まれるというのに、1つかせいぜい2、3の鍵を選んでいつまでもその音ばかりを単調に弾くのは、なんと近視眼的であろうか。

全鍵盤すなわち完全な福音がこの地上にあるというのに、多くの教会が1つの鍵盤を弾いているのは、いかに残念なことであろう。彼らの強調する音符は、宗教経験の完全なハーモニーを作るのに大切かもしれないが、そこにはすべての音符がないのである。それでは完全でない。

たとえば、ある人は信仰のいやしの鍵を弾き、それよりも大きな力をもたらす他の多くの原則を怠るのである。また他の人は、安息日を守ることに関係したおぼろげにしか覚えていない鍵を弾くと、それは違った音色を出して、大切な音符とまざりあってしまう。そのように使われた鍵は、調子はずれの音を出すであろう。ある人はバプテスマの様式に関する鍵をいつまでも繰り返し、まるで鍵がそれしかないかのように、他に2つ3つの音しか弾かない。繰り返して言うが、彼の用いる鍵盤は、いかに大切であろうとも、他の鍵盤をないがしろにしてそればかりを弾いては完全なメロディーとならない。

他にも例があげられる。多くの人々は福音の一部をいつまでも強調し続け、それらの上に教会を建て、イエス・キリストの福音の完全なはかりにかけると自分たちの望む音色とはまったく違った音を弾いていたということにもなるのである。たとえてみて、我々は信仰やいやしの鍵盤が大切でないと言うのではない。我々はそれを認めるばかりか、それにより頼み、体験もしているが、それが福音そのものではなく、それで完全ではないのである。

我々は、バプテスマが大切ではないなどと決して考えない。それは絶対に必要である。なぜならバプテスマは教会すなわち神の王国への正式登録であるからである。しかし、もしその鍵盤だけを権能の鍵盤の伴奏なしで弾くならば、完全も調和も失われ、不協和音となってしまう。また信仰や悔い改めの鍵盤なしでは、意味がなく、おそろくもっと悪くなって偽物となってしまうであろう。この状態は我々が言うところの権能が欠如している時に起こるのである。

さて、我々は彼らが不完全であるとしても、彼らが悪いとも言うのではない。完全な福音が回復された。主に代って働く力や権威が我々と共にある。神権の力と権威はこの教会にある。主は啓示された。

「……而してこの大神権は福音を授け、また王国の奥義の鍵、すなわち神の知識の鍵を保つものなり。この故にこれを以て礼式を執り行なう時に神の能力顕る。而して、この神権を以てする礼式と神権の権能なくしては、肉身を持てる人間に神の能力顕ることなし。」（教義と聖約84：19—21）

悪の非常な力が我々に対抗するこの末の日に、聖典に述べられた大背教が避けられない終結に向かう。その防壁



となるべきキリスト教の諸教会は、教会員や聖職者にとってほとんど存在意義をなくしているように見える。虚しくなった教会や聖職者の恐ろしい亡霊が、とりわけ彼らこそが反対すべき物事をかえって盛りたてている。

最近の旅行中、私は、諸教会に野原の雑草がはびこり、門が閉ざされ、あいてはいても虚しく見えることは恐ろしいと述べた。我々は聖典を開いたことのない世代の恐ろしい思想に直面しているのである。

末日聖徒イエス・キリスト教会に興味を持ちながら、全き福音が存在するという理想に通りいっぺんの注意しか払わない人々がいるのは珍しいことではない。

彼らはその場である教義を例外視したり、反対したりして、ただ1つの鍵盤、特定の教義にひかれる。彼らはそれだけによって改宗する。彼らは他に調べもせず、実際他のものは拒否したり異議を唱えながら、そのことについてすべてを知りたいと思う。

彼らはその鍵盤だけがひかれるのを繰り返し聞いていたいと望む。完全というものがあるのを知らなければ、すなわちほかに暖かみやハーモニーや完全をかもし出す、補足しあう理想や教義があって、ただ1つの鍵盤であれば

不協和音となるところを、正しい時にそれぞれの鍵が働くことを知らなければ、彼らはごくわずかの知識しか与えられないであろう。

その危険は、改宗者だけのものではない。自分の好む1、2の鍵盤だけによく通じ、そればかりをいつも打っている教会員はまわりの人々をいらだたせる。彼らは自分の霊的感受性をにぶくしがちである。彼らは完全な福音がある道を見失い、個人的には多くの教会と同様になる。好む音符に執着して完全というものを拒否してしまうかもしれない。それは誇張され、ゆがめられて背教へと進んで行く。

私は、そのことについて考えよと助言をした。しかしさらに、あなた方はこのことについて祈れとすすめたい。1人考えることは知恵の基となる。しかし、みたまによる交流というより完全な方法がそこに存在する。「……御霊はすべてのものをきわめ、神の深みまでもきわめるのだからである。」(Ⅰコリント2:10)

コリント人に対してパウロは述べた「この賜物について語るにも、わたしたちは人間の知恵が教える言葉を用いなくて、御霊の教える言葉を用い、霊によって霊のことを解釈するのである。生れながらの人は、神の御霊の賜

物を受けいれない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない。」(Ⅱコリント2:13-14)

どの人も、祈りによって次の質問の答えを求める権利、実を言えば責任、を持っている。真実の教会はあるのですか、と。あなた方の知る通り、それは14歳の少年が森に入ってすべてが始まった。あの時の質問である。2つの疑問、すべての教会のうちどれが正しいのですか。そして、どれに加わるべきなのですか。そこで、彼は御父と御子の驚嘆すべき示現を経験し、時満ちたる神権時代が始まった。それに引き続き、主に代って働く権能が回復され、それは今この教会に存在する。我々はこの集会で神の予言者ジョセフ・フィールディング・スミス声を聞いた。

私は、彼が神の予言者であると証する。私はイエスがキリストであるとの証を持っている。キリストは生きたもう。末日聖徒イエス・キリスト教会は地の面で唯一の真実の生ける教会である。イエス・キリストのみ名によりこれらのことを証するものである。アーメン。



方 針 と 手 続 き

短期滞在会員への福祉援助

短期滞在会員が教会福祉プログラムを不正に利用しているという報告が、数多く管理監督会事務局に寄せられている。監督は短期滞在中に援助を与える際には十分注意を払うべきである。

援助を申し出ている会員の必要度と特にふさわしさを確認するために、監督はいつも前監督に問い合わせなければならない。

ノーヴー訪問者センター

ノーヴー復興会社の監督下に、イリノイ州ノーヴーのミズーリ川を見おろす約 650 アールの敷地に建設されたノーヴー訪問者センターが、最近 N・エルドン・タナー第 2 副管長によって献納された。献納式は新しい訪問者

センター横に設けられた大テントの中で行なわれた。そこでは、約 4 千人の人々が、125 年前に州内で最大の市であった当時のノーヴーの史実に耳を傾けた。

日曜の夕べの討論会

執事とビーハイブ・プログラムの若い男女は、監督の日曜の夕べの討論会（ファイア・サイド）に参加するよう招かれたい。彼らは教師になるかマイア・メイド・プログラムに入るまでは出席すべきではない。そこで、監督の日曜の夕べの討論会への出席を発表する時には、年齢よりもむしろ年齢別クラス名で

発表すべきである。たとえば、「祭司、教師、ローレル、マイア・メイドの年齢の人々は全員、監督の日曜の夕べの討論会に出席して下さい」と言うように。こうすることにより、マイア・メイドのクラスに移るまでは出席する資格のない、14 歳のビーハイブの少女が出席したりすることはなくなるであろう。

性 教 育

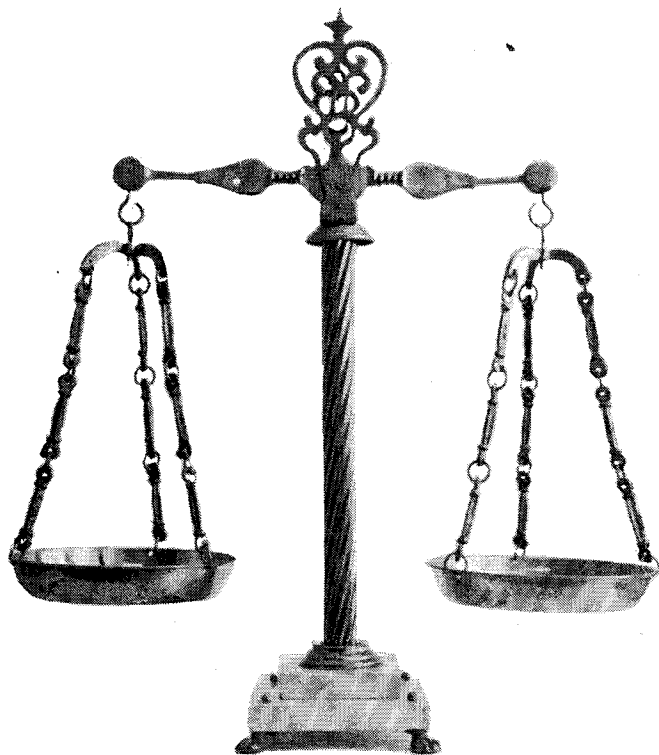
子供たちにこのきわめて重大な事柄を教えるにあたって、学校にそれをゆだねることは大きな危険をはらむものであると我々は信ずる。この責任を社会や学校に任せることは賢

明でないし、教会にこの責任を負わせることもできない。この点で義務を十分に果たすのは両親である。

決 断

大 祝 福 師

エルドレット・G・スミス



兄弟姉妹、この世が創造される前の時代、すなわちあなたも私も、そしてすべての人々がこの地上での生活の目的と機会について天父の教えを受けていた天上の大会議に共に思いをはせてみよう。

「これらの者の中に、神の如き者一人立ちて共に在りし者たちに言いけるは、われら降り行かん。かしこに空間あればなり。而してこれらの材料をとりて、これらの者の住まうべき地を造らん。而して、これによりて彼らを試し、何にてもあれ、主なる彼らの神の命じたまわんすべてのことを彼らが為すや否やを見ん。而して、最初の位を保つ者は更に付け加えられ、最初の位を保たざる者は、最初の位を保つ者と同じ王国にて栄を得ることなからん。而して、第二の位を保つ者は、とこしえに栄光をその頭に付け加えられん。主、宣いけるは、われ誰を遣わさんか。一人、『人の子』の如くに答えて言いけるは、われここに在り、われを遣わしたまえ、と。……主宣いけるは、われ先の者を遣わさん。而して、第二の者怒りて、その第一の位を保たず。

而してその日多くの者たち彼の後に従えり。」（アブラハム 3：24-28）

我々のもう 1 人の兄である暁の子ルシファーは、非常に魅力的な申し出をしたのに違いない。私は彼の言葉を想像できるような気がする。「私に従いなさい。そうすればあなた方に新しい計画を示そう。今までの計画は時代遅れのものだ。私の計画に従えば、努力なしにだれ 1 人もれることなく、天父のもとに帰れるのだ。」彼はなかなかの心理学者で、我々が望んでいる「安全」ということに訴えてきたのである。彼の計画は非常に心を引くものであったため、天の軍勢の 3 分の 1 が彼に従った。

彼らは自由意志を使うことのできる権利を捨てたが、その決定に伴う大きな結果を知らなかった。彼らは選択の権利、自分で決定を下す権利を失ってしまったのである。

そののち天上の戦いがあり、ルシファーとそれにつき従った者たちはみな落とされた。彼らは我々を試みるために地上に来て、そのために必死になっている。

自由意志には選択が伴う。そしてそこには対立する力がなければならない。対立する力を克服しようとしなければ成長も進歩も成功もない。ルシファーと彼に従った者たちは、その対立する力を与えてくれた。それによって我々はこの世で自由意志を使うことができるようになったのである。

物事の決断を下す権利は、今や我々のものであり、それはこの世で最もすばらしい宝である。主はその権利を我々から取り去られることはないであろうし、そうすることはできない。また実際そのようなことは考えておられない。むしろ我々がそれを用いるようにと望んでおられる。主は我々のためにさらに大きな成長のために、ひいては永遠の生命を得るためにその権利をどのように利用すべきか絶えず忠告し、教えて下さっている。

私はもし神が我々にルシファーに対抗し、打ち勝つ力をお与えにならないなら、我々を試すために、持てるすべての力を備えたルシファーをこの世に置かれるのはまったく不公平であると考えたであろう。ルシファーは自らの

選びによってこの世に来たのではなかった。彼は天上の戦いに破れ、ある業をなすためにこの世に置かれた。そして彼は確かにうまくやっているのである。

神は公平な方である。それゆえルシファーは、この世にあって許されていること以外は何もできないのである。

ヨブの話を覚えておられるだろうか。ヨブはいろいろな試しを受けたが、ルシファーはヨブを試すために許しを請うた。彼は1度に1つの試しを与える許可を得た。ヨブは1つの試しで富をなくし、また1つの試しで家族を失ない、また別の試しで健康を害されたのである。それから主は、ヨブの心以外は完全にサタンの手にかせられた。

ヨブは試しを受けるごとにそれらに耐える力を増した。そして彼は、今日の次の聖句に見られる不死不滅の証を述べたのである。「わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる、末の日に彼は必ず地の上に立たれる。わたしの皮のうじがこの体を滅ぼしたのち、わたしは肉に在りて神を見るであろう。しかもわたしのこの目で見るとであろう。わたしの見る者はこれ以外のものではない。わたしの心はこれを望んでこられる。」(欽定訳ヨブ19:25—27)

もし我々が完全になりたいなら、我々もまたそのような域に到達しなければならない。すなわち主は望むならサタンを解き放ち、我々の心を破壊することを除いて、全力をもって我々に立ち向かわせることもできるのである。我々がそれに耐えるなら、完全の域にまた昇栄にさえ到ることができるであろう。

ヨブと同じように、主は我々が主から助けを得るならサタンが耐えられないような試しをもって試みるのを許し

てはおかれない。

ここに、我々が正しい決定を下す手助けとなる鍵がある。主は、オリヴァ・カウドリが記録を訳そうとした時、彼にこう言われた。「見よ、汝はまだ悟らず。汝はひたすらわれに願ひし時はこれを与えらるるならんと思えり。されど見よ、われ汝に告ぐ、汝心の中によく思い計り、その後願うこともし正しからば汝願わざるべからず。願うこと正しからば、その時われ汝の心を内に燃やさん。これによりて汝にその正しきを感じしむ。されども願うところ正しからずば、かかる感なくして汝の心は次第に鈍くなり、そはついに悪の悪たるを忘れしむるに至らん。故にわが与うるにあらざれば、聖きことを汝録すを得ず。」(教義と聖約9:7—9)

主は言われている。「捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけそうすれば、あけてもらえるであろう。求めよ、そうすれば、与えられるであろう。」(マタイ7:7、ルカ11:9参照)

それはあなたが決めることである。人はそれぞれ自ら決断を下さねばならない。だれも人の人生をその人にかわって生きることはできない。

あなたがもし主に助けを求めるなら主はあなたに強さと力を、そしてルシファーに打ち勝ちその試しに耐える能力を与えて下さるであろう。こうしてあなたは強められ、より完全な者とされるのである。我々は祈りの中で主の助けを求めなければならない。

主は自分だけでしようとする人々には何の約束もしておられない。あなたが主の助けをかりずに自分1人だけで悪に打ち勝てると考えるなら、戦いを始める前にすでに負けてしまっているのである。

私は習慣を変えようと努力した人々の数多くの経験談を聞いている。彼ら

は知恵の言葉を守ること、什分の一を払うこと、これらのことを主の助けをかりずに試みた時にみな失敗している。しかし彼らが主に助けを求めた時には、容易にでき、さらに福音に対する証までも得ているのである。

主は我々に従うべき多くの律法と戒めとを与えておられる。我々はそれらに従う時、主の助けを得なければならぬ。これらはほとんどが、我々の決断力を試すために、また一般的に言われている天の第1の律法である従順の律法を受け入れるかどうかを見るために与えられている。

主があなたにして欲しいと思っておられるという理由で、主が望んでおられることをしたいと思う時、主に助けを求めるなら、これらの律法や戒めを守ることは容易になる。

それはあなたの決めることである。

「汝ら知れ、すべての魂の自由なるを、自己の人生を、おのがままに選べることを

そは、とこしえの真理なるが故なり、主は、むりやりに人を天国に連れざるが故なり。

主は、人をいつも正しきへと導き給う

更に知識と愛情と光明を、あふるるばかり与え給う

そは、善意と親切によらざるはなし、されど不思議や、人の心を強制なさることはなし。」

讃美歌90番 (英文)

私はすべての人々に、我々の最もすばらしい宝である自由意志の大切さを知るように、主の助けをかりて判断を下すことにより、それを賢明に用いることを学ぶように勧めたい。

主のみ心をなそうと努力するすべての人々に主の祝福があるように、イエス・キリストのみ名により祈り奉る。アーメン。

証

「そこでイエスは彼らに答えて言われた、『わたしの教はわたし自身の教ではなく、わたしをつかわされたかたの教である。神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう』」（ヨハネ 7:16—17）

お茶でもどうぞ

私は1956年5月に発病し神戸市内の病院に入院しました。同年11月退院しましたが、それ以来ブラブラしていました。

ある日神戸市民病院の前を通りかかった時、ふと、目に映った看板が私の心を打って、その家をたずねてみました。そこが主の僕として導いて下さった人、稲垣長老の家でした。彼は感ずるところがあって前の教会をやめ、今のモルモン教会へ改宗された訳を話して下さいました。それ以後、私も改宗したいと教会を訪問し、宣教師にお会いしてスライドなどを見せていただきました。

その当時は日本神道の教師をして、冠婚葬祭等の手伝いをしていました。二回目の入院をせねばならなくなり1968年12月再び入院しました。入院してからもし曜日には必ず、宣教師が教材を持ってきて下さいました。あまりの熱心さに私のかたくなな心も解け、改宗する決心をしました。院長先生の許可を受け教会に行き、外人宣教師ライマスター長老からバプテスマを受けました。

会員となり神権を授けられてからは、教会へ行ってもアロン神権者の仕事をしたり、安息日に小さな証をさせてもらっていました。病いのいやしの儀式を受けましたところ、専門医から不治といわれてあきらめ、老病と覚悟していた高血圧症と腰痛が、不思議に私の体から去り、心の奥底から主に感謝せざるをえませんでした。

1969年の夏、当時私は61歳でしたが、ビラである会社が季節工を募集しているのを知りました。電話してみるとたくさんの申込みがあり、どうなるかわからないが一度ご来社下さいとのことでした。すぐなれない手付きで履歴書を書き、古い写真を一枚探し出して貼りつけ、走るように息をはずませながら会社へ行きました。しかしもう1時すぎで希望者が面接を終り帰ってくる姿も見えました。今朝お電話した者ですが、と受付に書類を提出しましたところ、もう午前中で締切ったと言われながら課長さんの席に持って行かれました。面接室に課長さんがこられ、私の年など聞き、「折角ですが、お年も召されておられ、仕事は無理の様にも思います。」と

のことでした。万事休すと思ひながら主に祈りを捧げたその時でした。給仕さんが「大変遅くなりました。お茶でもどうぞ」と冷たいお茶を運んでこられました。すると別の上司が入ってこられ、「この方は」と課長さんにたずねました。「応募の方ですが相当お年ですので、どうしようかと考えています」と話していました。「まあ折角来て下さったのだから、お茶の冷たいのでも召上って帰っていただいでは」とのやりとりでした。私は「ありがとうございますがこれは日本茶の冷やしたものでしょうか」と尋ねますと、「いいえ麦茶を冷やしたものです」と言われました。「それではいただきます。私はモルモンでお茶はいただかないのでおたずねしました」と言うと先程の態度が変わりました。「あなたはモルモン教会の方ですか。あのパビリオンを展示している教会ですね、実は私もこの間万博で見てきました。宣教師さんからいろいろ伺いカードにサインをしてきました。モルモンの方とは存じませんでしたので、本当に申し訳ありませんでした。失礼いたしました。あの教会の戒律は大変厳しいですね。その教会員の方なら大丈夫、手伝っていただけでしょう。7月20日から作業を始めたいと思いますのでぜひおいで下さい。工場を準備中ですのでご案内いたしましょう」と見学を許されました。その時程モルモンのありがたさを感じたことはありませんでした。

その後12月までモルモンとして恥じないように働きました。最後の日には社長もご出席され送別の宴を開いていただき、退職金賞与等をうけ、また記念品までいただきました。モルモンとしての名誉をかぎり、新春を幸福に満たされ迎えました。

実に主の祝福の偉大なる御業をたたえて私の証といたします。最後に聖句を一つ書かせていただきます。

「見よ、汝、神よりも人をおそれしは悪しきことなり」
（教義と聖約3：7）

神戸支部 原田兼吉

車 中 で い た だ い た

モ ル モ ン 経

1月4日の夜、郡山駅から上野行の鈍行に、かなり酒に酔って乗り込んだ。その日私は、家を出る時に父と一度、友達の家で一度、スナックで一度、そして居酒屋で一度と計四度も酒を口にしていた。幸運にも一つの空席をみつけて、腰をおろした。窓の外の深い闇と、ガラスに写る車内の様子にかわるがわる目をやりながら、またしても今年の私について回るであろう、墮落・怠惰・倦怠・奈落・破滅などという言葉の思いやり、酒に酔って鋭くなった感情で、それらの言葉のもつひとつひとつのひびきを楽しんだり、また急にエドガー・アランポー万才！などとつぶやいたりしながら1時間程時をすごした。外を眺めるのも、言葉をもて遊ぶのにもあきて、ふと見ると、少し離れたところに3人の女性がいるのに気がついた。彼女達は食べたり、話をしたりしながら、たいくつな時間を上手に過ごしている様子なので、私も仲間に入れてもらえませんかとたずねたら、みごとにことわられた。3人の中でも一番落ちついてみえた人にもう一度たずねた。今度はつまらない話しかしていませんがどうぞという返事があった。とうとう上野につくまで語り合ってしまった。

東京でそれぞれ別れて、仲間に入れてくれた一人と私が池上線に乗ることになった。その電車で、彼女は自分が末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることを話してくれた。

この聞きなれない教会の名前を聞き、げげな顔をするとすぐさまモルモンですとつけ加えてくれた。しかし、それまでモルモンのモノ字も聞いた事はなく、ただ変った宗教もあるものと思った。彼女はモルモン経を読んで下さいというので、私は1月16日に本を返しに行く約束をし、10日あまりのうちにこの妙なる書物を読んでもしまおうと決めた。結局モルモン経は6日間で読み終えたが、当時は唯物論者であり、神の存在など一笑にふしていた私には特別に感じるところもなかったし、それが真実かどうかなどと問う気にもならなかった。ただ義理堅い方などで、借りたものは返そうと思い16日の午後、教会に足を運んでみた。

教会についたときには、聖餐会を終えた兄弟、姉妹たちが思い思いに談笑しており、私の姿を見ると皆がとてもにこやかな顔で握手をしてくれた。それまで握手をする習慣などなかったので少々面喰らってしまったが、その明るく暖かい兄弟姉妹の様子は、私の胸に強烈な印象を残した。

その日のうちに、宣教師に紹介され、教会のスライドを見た。しかしそのときは、ただなんとなくいいものだなと感じたぐらいで特別大きな印象はなかった。2回、3回とレッスンが進んだが、最初は長老達の話す日本語がよく聞きとれなかったり、意味がわからなかったりしてまどついた。彼らが話す言葉の中で「証」という日本語が、まったく理解できないのには閉口した。質問にはなんとか答える事ができたがそれはあくまで国語の授業における答えのようで、心から信じ

る事はできないでいた。しかしそうしているうちに私の生活が少しずつ変わりはじめ出した。まず、私の心から厚いうろこがとれはじめ、心が悪に対して敏感になり、今までは平気で見過したり、行なってきた事が心にひっかかり、できなくなってきた。なんとなく心が安らいできたような、安心できるような気持ちになってきた。そして、どうにかてれくさくなく祈れるようになり、心にも、なにか少し暖かいものを感じるようになってきた。私は神の存在が、ジョセフ・スミスが神の予言者であり、モルモン経が真実なものである事を少しずつ信じられるようになった。教会のレッスンを受けながらも、相変わらず酒は飲んでいて、それは智恵の言葉の誠命のレッスンを教えていただくまでつづいた。そのため、日曜に教会に出席するという長老との約束を、二度も破ってしまった。出席する気持は充分にあったのだが、なにぶん二日酔いで、目がさめたときには陽はもう高かった、という具合ではどうしようもなかった。それまでの私は、ほとんど毎晩酒を口にしていたし、3日も酒を飲まない、という具合で、何もできなくなるといった有様で、そういった私を歓迎してくれたのは、ただ数件あったなじみの飲み屋さんぐらいのものであった。私が智恵の言葉の誠命を知ったのは2月1日であったから、もう47日酒を口にしていない事になるが、これは私にとってはまさに驚異である。私はこの間なんども酒をはじめ、肉欲その他のサタンの誘惑にあったが、そういった時には、自分の身体は聖霊が住めるように清くしていなければならない事、そしてなによりも、日の栄において神といっしょに住むのだという事を思い起し、祈って、なんとか耐える事ができた。少し気を抜くとサタンは、たちまち、非常に巧みに誘惑をしかけてくる。私は自分の霊的なものが弱まる事がとても恐い。私はそんなとき、自分の生活をよく反省し、何か神の御心にかなわない事をしているのではないかと考える事にしている。私がモルモンの教会員となり、喜びに満された日々を送っている事の反面、その意味で私は、教会員として、自分自身に対し、また回りの人々に対して大きな責任がある。

正直なところ、前にくらべればめったな行動はとれないと感じている。私はその後、レッスンが進むにつれ、このモルモン教会が本当に真実・唯一の正しい教会である事を確信した。10年以上も行方が知れなかった母と逢う事ができた事などの証を得て、2月13日にバプテスマを受け、また聖霊の賜を受ける事ができたのである。聖霊の賜を得てからの私が、更にたくさんの証を得、聖句に書かれている事を実際に経験する事ができるようになった事を心から神様と、この教会員の人々に感謝し、これからもよく私を指導して下さいをお願いしてペンを置きたいと思う。

東京第4ワード部 新野 良

伝道部大会開催

桜の花が満開の神戸の地で、年に1回の伝道部大会が開かれました。あいにくの雨のため計画した運動会が流れ、神戸支部で、万博の映画「日本万国博覧会」を観賞、新築された「伝道部長の家(ミッションホーム)」のオープンハウス、食事会、夜は、カナディアンアカデミーで、1階のソーシャルダンスと2階のフォークダンスに別れて、楽しいダンスの夕べを600人の参加を得て開催しました。

翌4月9日、朝9時30分から、豊中市民会館で、大会を始

め、1300名の参加を得

て「私は関心を持つ」

をテーマに、伝道とフ

ェローシップを強調し

た力強い指導者の言葉

に耳を傾け、神の王国

建設のために一層の努

力をしたいとの強い熱意に打たれて散会しました。



ミッションホームの完成

伝道部が開設されて満3年6カ月、伝道部長の家が完成、3月27日に、アパートから引越をしました。住所は神戸支部と同じです。

京都支部の完成もあり、このところ、新築続きで、伝道部

は、本当によく前進しています。ミッションホームは、これも開通したばかりの山陽新幹線「新神戸駅」から、バスで10分の距離で、交通の便はとてもよい所です。ぜひお立寄り下さい。

私の証

姉を助けてくださった

ホーム・ティーチャー

私たちの支部に、待ちに待った主のみ業の一つであるホーム・ティーチングが組織されたのは、わずか二週間前の3月26日です。

わが家のホーム・ティーチャーは、中村兄弟と久末兄弟です。組織されたその日に、私たちがホーム・ティーチャーですとごあいさつにいらしゃった時は、とても嬉しく思いました。でもホーム・ティーチングが、私たちの家庭にどのような働きをして下さるのか、本当の意味はまだわかりませんでした。それから4日後、突然会社へ姉から電話があり、吐血したとの知らせでした。母は外出しており父も所用で手はずせないで、私は急いで家に帰りました。どうしたら良いかいろいろ考えました。姉は10年程前に虫垂炎がゆ着して大手術を三回も受け、危険な状態にも直面しました。たびたびの手術で胃も小さくなり、体力も衰えていましたので、このたびの吐血ではとても心配でした。姉を病院につれて行き

先生方を探している時、私たちのホーム・ティーチャーが医者さんであることに気がつきました。すぐ自宅に電話しました。

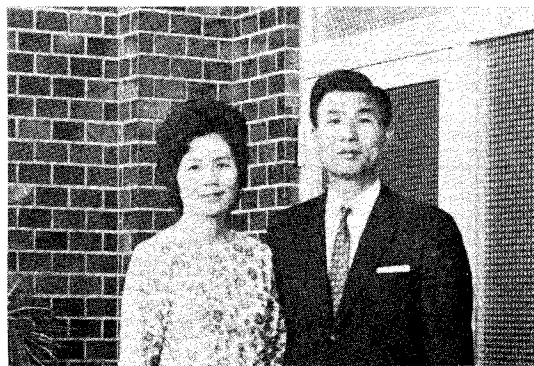
数日後、ホーム・ティーチャーは雨の中を重い荷物を抱きかかえるようにして門を入ってこられました。姉のレントゲンとそれを写す投写機を持って訪問してくださったのです。私はほんとうに驚き神様に感謝しました。私たちの家族を救うために、主の御名によって召された神権者が、大切な機械を持って雨の中をきてくださったのです。二人の神権者と共に父・母・姉が同じ部屋で時を過している光景を私は喜びに感動しながらながめていました。

私たちをいつも心にかけ、ほんとうの幸福をもたらしてくださる神様とその使いである神権者に深く感謝いたします。

熊本支部 大島ひろ子

母の日に寄せて

渡辺 八重子



「母よわれ美しき樂しき夢みぬ……」またこの美しい歌をうたう美しい5月がやってまいりました。この歌をうたう時、誰でも母のおもかげをしのび母に感謝の気持ちが湧いてくることでしょう。リチャード・L・エバンズ長老はこのようにおっしゃっています。「この世で母親の仕事ほどやりがいのあるものはない。その仕事が偉大なる故に神はそれを母親以外の人にお任せにならなかった。訓育し、助言し、励まし、人格の方向を定め、必要な時には懲罰を加え、あるいは人生の教訓を学ぶようにと愛によって抑制するなど、これほどに意義ある母親の仕事は他の人が何人いても決してなし得ないであろう。」



私も私を育ててくれた母に対し心から感謝しています。私の母は身体の不自由な夫を助け10人の子供を育てた実によく働く母でした。私は父から正直、母から勤勉ということを学ぶことができたことを心から感謝しています。私は今こうしてこの伝道部に召され、多くの立派なお母さん達を知ることができたことを本当に感謝しています。今日は

その中の一人のお母さんを紹介しましょう。

「ここに一台の馬車があります。それは『天国行きの馬車』といって正しい人だけが乗ることのできる馬車です。もしこの馬車に自分の子供が一人でも乗ることができなかったら……自分が降りて代りにその子供をのせてやりたい、それが本当の母親の愛ではないでしょうか。」このような証をされた喜納ハル姉妹（那覇支部）は8人の男の子の母親です。御主人を亡くされ苦難と試練の中で母の手ひとつで子供達を育てられました。彼女の望みは（母親の誰でもが望むように）子供達が正しい道を歩んでくれるようにということでした。幸いなことに3年半前にこの教会を知り、できることなら子供

達と共にこの幸福への道を歩みたいと思い一緒に家庭集会をうけるようになりましたが、わんぱくざかりの子供達は宣教師がこられると逃げてしまったりして大変だったそうです。バプテスマを受けた後も不活発になった子がいたり、彼女の悩みはつきないようでした。それでも彼女は決して諦めめることなく主に祈り一生懸命働き続けてきました。現在子供達もみな成長し熱心な会員となりよく責任を果されています。中でも3人の息子さんを宣教師として伝道に送り出されたことは本当に素晴らしいことです。浩兄弟は中央伝道部で（3月帰還）栄晶兄弟は日本伝道部、明兄弟は東伝道部で伝道されています。先日の大会で彼女はこのような話もされました。

「子供達がこの教会に熱心に集い、一生懸命勉強すれば、どの大学を出たよりも立派な人間になれる。」又、「この息子が伝道に出て一生懸命神さまの御業にたづさわってくれたならば不活発になっている息子が必ず悔改めて教会に帰ってくると確信をもっていたら本当にその通りになった。神さまは私達の願いをいつも聞きとどけて下さいます」と。或時伝道部長が「喜納姉妹、今貴女の責任は何ですか」ときかれた時彼女は「私の第一の責任は母親です」と答えたそうです。と云っても彼女は決して自分の子供のためにのみ愛を捧げてきたものではありません。支部長の糸数兄弟の話によれば喜納姉妹は会員の中で最もよく伝道して下さる一人だそうです。彼女の紹介によって多くの人々が改宗されています。「この道によって私は救われ私の家族は救われました。もしこの教会を知らなかったらこの息子達がどのようになっていたかわかりません。神様が小さな者でも1人1人をおみちびき下さり、私にもこのようなお恵みを下さったことを感謝しています。」と現在の彼女は感謝の日々を送っております。ハロルド・B・リー副管長はこのようにおっしゃっています。「喜んで耳を傾け、従う場合にのみ、あなたと家族は主の道にある究極の平安へと導かれる」と。

私達も自分の持てる光を輝かし子供達のよい母親となり、多くの人々の模範となり、地の塩となるよう努力しましょう。

和歌

娘の描きし母のおもかげうるわしく

老いも知らぬか長き別れに

山下 敏子

やつれたる受験の吾子に食せんと

厨房に立てば物思わゆる

松井 民子

み手にありやすらぎを得て眠る母

すこやかなれと吾れ祈りつつ

不具の子をいとしと抱きぬ母の腕

力強くもやわらかきかな

重富 富美子

